

市立高等学校改革推進計画第 2 次計画 検証報告書

**令和 7（2025）年 2 月
川崎市教育委員会事務局**

目次

第1章 市立高等学校改革推進計画第2次計画について.....	1
1 背景及び経緯.....	1
2 第2次計画の構成.....	3
3 検証の考え方.....	4
第2章 取組の実施状況.....	5
1 全日制課程普通科.....	5
2 全日制課程専門学科.....	20
3 定時制課程.....	27
第3章 検証結果.....	35
1 第2次計画の検証結果まとめ.....	35
2 第2次計画策定以降に顕在化した課題.....	38
3 今後の検討の方向性.....	41
4 今後のスケジュール.....	42
第4章 参考資料.....	43
1 市立高等学校の歴史.....	43
2 市立高等学校に関する計画の体系図.....	46
3 市立高等学校の定員の変遷.....	47
4 市立高等学校全日制課程における令和6（2024）年度入学生の教育課程表.....	48

第1章 市立高等学校改革推進計画第2次計画について

1 背景及び経緯

本市では、川崎市立高等学校（以下「市立高等学校」という。）として、川崎高等学校（川崎高等学校附属中学校を含む。）¹、幸高等学校、川崎総合科学高等学校、橘高等学校、高津高等学校の5校を設置しており、社会や市民の要請に基づき変遷しながら、魅力ある高等学校づくりを進めてきました（43頁「市立高等学校の歴史」参照。また、令和6（2024）年度における市立高等学校の課程、学科及び募集課程については表1を参照）。

市立高等学校に関する計画として、本市では、平成15（2003）年5月に「川崎市立高等学校教育振興計画（以下「振興計画」という。）」を策定し、「①生徒の可能性を伸ばすための教育内容や教育方法の充実」、「②開かれた高等学校づくりの推進」、「③新しい視点による学校・学科・学系の創造」、「④入学者選抜方法および通学区域（学区）などの検討」及び「⑤生徒の意欲的な活動を支援する条件づくり」の5つの柱を掲げ、時代とともに変化する社会状況や生徒のニーズに柔軟に対応するとともに、市立高等学校の更なる充実及び発展に取り組んできました。

これまで、振興計画に基づき、通学区域変更、転入学の弾力化等を実施するとともに、中長期的な取組である「③新しい視点による学校・学科・学系の創造」を具体化させるため、平成19（2007）年7月に「市立高等学校改革推進計画（以下「第1次計画」という。）」を策定し、中高一貫教育校として川崎高等学校附属中学校の開校したほか、川崎高等学校定時制課程普通科昼間部の開設、商業高等学校（現幸高等学校）、川崎総合科学高等学校及び橘高等学校の学科改編や教育課程の見直し及び編成等を実施しました。

こうした中、令和2（2020）年2月には、振興計画に掲げる「①生徒の可能性を伸ばすための教育内容や教育方法の充実」、「②開かれた高等学校づくりの推進」、「⑤生徒の意欲的な活動を支援する条件づくり」を着実に推進するため、「市立高等学校改革推進計画第2次計画（以下「第2次計画」という。）」を策定し、この間、様々な取組を行ってきました（2頁の図1を参照）。

第2次計画では、計画期間を「令和2（2020）年度からおおむね10年間」としながらも、「取組の実施状況や社会情勢の変化等を踏まえ、本市総合計画や、かわさき教育プランの点検・評価及び実施計画等策定作業の中で検証・見直しを行っていきます」としていることから、令和6（2024）年度に第2次計画に位置付けられた各取組の実施状況等の検証を行いました。

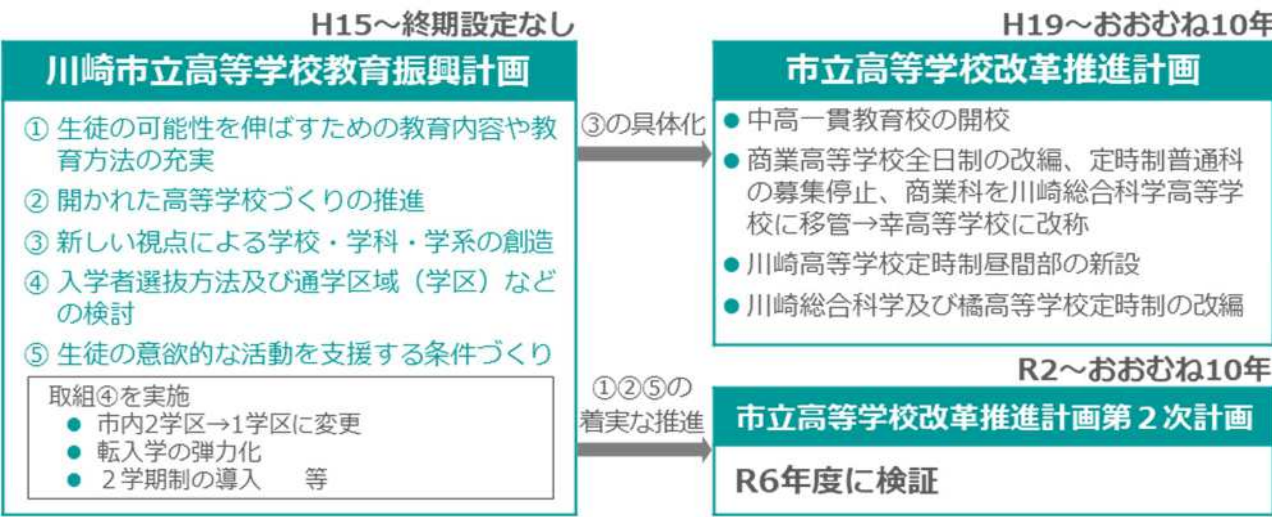
本報告書は、その検証結果や課題、今後の検討の方向性等をまとめたものです。

¹ 川崎高等学校及び川崎高等学校附属中学校は、中高一貫教育校の1つである、併設型の中学校・高等学校のため、本報告書における「市立高等学校」には、川崎高等学校附属中学校を含む。

表 1 令和 6（2024）年度における市立高等学校の課程、学科及び令和 6 年度の定員

学校名	課程	学科	設置年度	R6 年度の定員
川崎高等学校	全日制	普通科（附属中の募集のみ）	H26 年度	120 人(3 学級)
川崎高等学校附属中学校		生活科学科	H 6 年度	40 人(1 学級)
		福祉科	H 9 年度	40 人(1 学級)
	定時制	普通科（昼間）	H26 年度	140 人(4 学級)
幸高等学校	全日制	普通科	H29 年度	120 人(3 学級)
		ビジネス教養科	H22 年度	120 人(3 学級)
川崎総合科学高等学校	全日制	情報工学科	H 5 年度	40 人(1 学級)
		総合電気科		40 人(1 学級)
		電子機械科		40 人(1 学級)
		建設工学科		40 人(1 学級)
		デザイン科		40 人(1 学級)
		科学科		40 人(1 学級)
	定時制	クリエイト工学科（夜間）	H26 年度	35 人(1 学級)
		商業科（夜間）	H29 年度	35 人(1 学級)
橘高等学校	全日制	普通科	S23 年度	200 人(5 学級)
		スポーツ科	H13 年度	40 人(1 学級)
		国際科		40 人(1 学級)
	定時制	普通科（夜間）	S23 年度	70 人(2 学級)
高津高等学校	全日制	普通科	S23 年度	280 人(7 学級)
	定時制	普通科（夜間）	S30 年度	70 人(2 学級)

図 1 市立高等学校に関する計画の体系概略図



2 第2次計画の構成

第2次計画の策定に当たっては、新しい時代に求められる、次のような資質・能力を生徒が身に付けられるよう目指すことを基本的な考え方としました。

- 新たな価値を生み出す豊かな創造性
- グローバル化の中で多様性を尊重するとともに、現在まで受け継がれてきた我が国固有の領土や歴史について理解し、伝統や文化を尊重しつつ、多様な他者と協働しながら目標に向かって挑戦する力
- 地域や社会における産業の役割を理解し、地域創生等に生かす力

また、振興計画に掲げる5つの柱のうち、「①生徒の可能性を伸ばすための教育内容や教育方法の充実」、「②開かれた高等学校づくりの推進」、「⑤生徒の意欲的な活動を支援する条件づくり」を着実に推進するため、全日制課程普通科、全日制課程専門学科、定時制課程それぞれについて、次の項目を設定しました。

全日制課程普通科

1 魅力ある普通科教育の推進

- カリキュラム・マネジメント
- キャリア教育
- ICT 環境の整備
- 中学生の普通科志向

2 中高一貫教育校の充実

- グローバルコミュニケーション力
- 総合的な探究の時間
- 特色ある中高一貫教育

全日制課程専門学科

1 進路実現を目指した専門教育

- 専門教育
- 専門学科離れ

2 特色ある専門学科の情報発信

- 情報発信

定時制課程

1 定時制生徒自立支援の充実

- 自立支援

2 定時制における学びの充実

- 学びの充実
- 学級編成

3 検証の考え方

検証に当たっては、第2次計画に位置付けられた各取組について、令和2（2020）年度から令和5（2023）年度までの実施状況等を取りまとめるとともに、その実績と課題について検証し、次の4つの区分に整理しました。

実績等に関する区分

達成	第2次計画に位置付けられた取組を実施し、目的を達成したことから、終了するもの
達成→取組継続	第2次計画に位置付けられた取組を実施し、目的を達成したが、今後も充実を図りながら、継続して取り組むことが望ましいもの
更なる取組が必要	第2次計画に位置付けられた取組を実施し、目的を達成したが、新たな課題等があることから、更なる取組が必要であるもの
未達成→継続	第2次計画に位置付けられた取組を実施できず、今後も引き続き取り組む必要があるもの

第2章 取組の実施状況

本章では、第2次計画に位置付けられた各取組について、実績と課題及びそれらに対する検証を行い、4頁記載の4つの区分に従って整理しました。

1 全日制課程普通科

全日制課程普通科については、近年の普通科志向に対応しつつ、生徒一人ひとりの資質・能力を伸ばすため、教科等横断的な教育課程の編成やキャリア教育の実施、それらを評価・改善するカリキュラム・マネジメント²の充実、また、そのための ICT 環境の整備等の普通科教育に取り組めます。

また、中高一貫教育校については、グローバルコミュニケーション力の育成や「総合的な探究の時間」の充実、特色ある中高一貫教育を目指した中高6年間の体系的・継続的な学びの充実に取り組めます。

(1) 魅力ある普通科教育の推進

ア カリキュラム・マネジメント

(ア) 第2次計画に位置付けられた取組

各教科等の見方・考え方を働かせた横断的な視点による教育課程の編成と実施、評価、改善を進めるカリキュラム・マネジメントの充実を図るとともに、生徒が身に付けるべき資質・能力の育成に向けた各教科等の指導計画や授業改善、指導力向上等の教職員研修を実施します。

(イ) 実績

- 教科等横断的な教育課程については、幸高等学校普通科で1単位、幸高等学校ビジネス教養科で1単位、高津高等学校で2単位（選択科目）を令和4（2022）年度以降の入学生教育課程において編成しました（48頁「市立高等学校全日制課程における令和6（2024）年度入学生教育課程表」参照）。
- 令和4（2022）年度から、各学校で、新しい「高等学校学習指導要領」や年間の標準授業時数等を踏まえ、地域や学校の実態に応じた新しい教育課程（カリキュラム）を編成しましたが、実施結果を評価し改善（マネジメント）するまでには至りませんでした。
- 表2のとおり、令和2（2020）年度から、新しい高等学校学習指導要領の内容に合わせ

² 「社会に開かれた教育課程」の理念の実現に向けて、学校教育に関わる様々な取組を、教育課程を中心に据えながら、組織的かつ計画的に実施し、教育活動の質の向上につなげていくことで、教育内容を組織的に配列すること、教育課程の編成、実施、評価のPDCAサイクルを確立すること、地域等の外部資源の活用の3つの側面が重視される（文部科学省ウェブサイトより https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/1384661.htm）。

た指導力向上等に関する教職員研修を、計 24 回実施しました。

表 2 指導力向上等に関する教職員研修の実施状況

学校名	R2 年度	R3 年度	R4 年度	R5 年度	合計
川崎高等学校	2 回	2 回	6 回	4 回	14 回
幸高等学校	－	－	1 回	1 回	2 回
橘高等学校	1 回	1 回	1 回	2 回	5 回
高津高等学校	－	1 回	－	2 回	3 回
合計	3 回	4 回	8 回	9 回	24 回

(ウ) 検証

更なる取組が必要

教科等横断的な教育課程の編成として、幸高等学校の普通科及びビジネス教養科では、「リサーチ基礎」を開講し、「総合的な探究の時間」で生徒自身が設定した課題解決に向け、数学、地歴公民及び商業の知識を活用しながら、根拠データの作成や分析を行う授業に取り組みました。また、高津高等学校普通科では、「キャリア研究」を開講し、複数の教科で学んできたことを踏まえながら、将来の進路について考える授業を実施するなど、教科等横断的な学びを実現できましたが、全ての普通科において編成するまでには至りませんでした。

その要因の 1 つとして、高等学校教育においては、大学入学者選抜が大きく影響を与えることが挙げられ、市立高等学校においても、「一般選抜」に対応した知識伝達型の授業に留まる傾向があります。しかしながら、表 3 のとおり、国の高大接続改革の一環として進められてきた大学入学者選抜改革の 1 つである「総合型選抜³」の実施割合が年々増加しており、今後もその割合は増加していくことが予想されることから、生徒の思考力・判断力・表現力や、主体性をもって多様な人々と協働する態度等を育成するための教科等横断的な学びの実施がより一層必要となってくることが想定されます。

また、地域や学校の実態に応じた教育課程（カリキュラム）の編成については、「総合的な探究の時間」を活用し、各教科での学習を結びつける教育活動を実施しました。例えば、橘高等学校では、令和 6（2024）年度の「総合的な探究の時間」において、SDGs の実現に向けた視点で興味や関心があるテーマとして、生徒自ら「プラスチック資源の循環の活性化」を課題として設定し、市の「かわさきプラスチック循環プロジェクト（愛称 かわプラ）」参画事業者が

³ 入学者に必要な能力、意欲、適性等を多面的・総合的に評価するため、単一の学問知識を問うのではなく、総合的な学力を評価する選抜方法のこと。

抱える課題について、これまで学んできた複数の教科の知識を組み合わせながら調査・探究し、どうすればプラスチック資源の循環を活性化できるか、かわプラ事業者に対し解決策を提案するなどの取組を実施しました。

「総合的な探究の時間」では、生徒が教科・科目等の枠組みを越え、自ら設定した課題に長期間取り組む中で、地域や企業等との関わりを通じて多様な価値観に出会い、主体的に課題を解決する力を身に付けられることから、今後、各教科での学習を結び付ける教育活動の核の1つとして探究学習を位置付け、より充実していくことが必要であるといえます。

一方で、これまで、「新課程における評価の方法についての授業研究」や「生徒の学習状況実態と今後の指導について」、「探究学習のための主体的学習者育成プログラム」等の研修を実施し、教員の指導力向上を図るとともに、各校の「学校教育推進会議⁴」での意見を踏まえ、学校運営の改善には取り組んできましたが、編成した教育課程を組織的かつ計画的に評価・改善するまでには至っていないことから、今後、各学校において、組織的なカリキュラム・マネジメントの仕組みを構築する必要があります。

以上のことから、本項目については一部達成したものの、各教科での学習を結び付ける教育活動の核の1つとして「総合的な探究の時間」を位置付け、その充実により一層取り組むとともに、教科等横断的な学びの更なる充実に向け、全校での教育課程の編成及び組織的なカリキュラム・マネジメントの仕組みづくりについて検討を進めていく必要があります。

橘高等学校普通科の取組「かわさきプラスチック循環プロジェクト」



校内での発表会



校内での発表会

⁴ 生徒、保護者、地域住民及び教職員で構成。令和5（2023）年度以降、順次学校運営協議会（コミュニティ・スクール）に移行している。なお、川崎高等学校附属中学校では、令和7（2025）年度から学校運営協議会を実施する予定となっている。



プラスチック分別回収の取組



プラスチック分別回収の取組

表3 全国における大学入学者選抜ごとの入学者数の割合

入学者選抜実施年度		R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	
国立	一般選抜	83.0%	82.1%	82.1%	81.4%	81.1%	↓
	学校推薦型選抜	12.4%	11.9%	11.7%	12.3%	12.4%	→
	総合型選抜	4.2%	5.5%	5.6%	5.9%	6.1%	↑
公立	一般選抜	71.0%	69.7%	69.8%	69.3%	69.1%	↓
	学校推薦型選抜	25.3%	25.8%	25.8%	26.0%	26.0%	↑
	総合型選抜	3.3%	3.8%	3.8%	4.1%	4.5%	↑
私立	一般選抜	43.3%	41.5%	41.1%	39.7%	39.0%	↓
	学校推薦型選抜	44.4%	41.5%	41.7%	41.4%	40.3%	↓
	総合型選抜	12.1%	14.7%	15.7%	17.3%	19.0%	↑
合計	一般選抜	50.9%	49.5%	49.0%	47.9%	47.5%	↓
	学校推薦型選抜	38.4%	36.0%	36.2%	35.9%	35.0%	↓
	総合型選抜	10.4%	12.7%	13.5%	14.8%	16.1%	↑

※文部科学省資料「入学者選抜実施状況」を基に作成

イ キャリア教育

(ア) 第2次計画に位置付けられた取組

総合的な探究の時間の充実を図った体験的な学習活動や問題発見・解決的な学習活動、キャリアに直結する学校設定科目における近隣の学校や専門学校等と連携した体験的・課題解決的な授業、外部講師による体験的な学習活動等の取組の推進を図ります。

また、インターンシップを積極的に実施するとともに、体験と実践を伴った探究的な学びを進めます。

(イ) 実績

- 令和 5（2023）年度から、高津高等学校全日課程に国語、地理歴史、公民、保健体育、外国語、家庭、情報の教科を横断した学校設定教科⁵「キャリア」を、2 年生に学校設定科目⁶「キャリア研究」を設置しました。
- 表 4 のとおり、令和 2（2020）年度から、幸高等学校では希望制で、令和 5（2023）年度から、高津高等学校ではキャリア教育の授業を選択した生徒全員に対して、それぞれインターンシップを開始し、令和 2（2020）年度から令和 5（2023）年度までで、計 22 件実施しました。

表 4 インターンシップの実績

学校名	R 2 年度	R 3 年度	R 4 年度	R 5 年度	合計
幸高等学校	1 件	0 件	14 件	2 件	17 件
高津高等学校	0 件	0 件	0 件	5 件	5 件
合計	1 件	0 件	14 件	7 件	22 件

インターンシップの様子



保育園（高津高等学校）



地域子育て支援センター（高津高等学校）

(ウ) 検証

達成→取組継続

高津高等学校の学校設定教科「キャリア」及び学校設定科目「キャリア研究」では、生徒が自身の将来の進路を考えることを通じて、日常生活や地域の中にある問題や課題を自分事とし

⁵ 学習指導要領に明記されている教科以外の教科のこと。学校が、生徒や学校、地域の実態及び学科の特色等に応じ、特色ある教育課程の編成に資するように設けることができる。

⁶ 学習指導要領に明記されている教科に属する科目以外の科目のこと（例：川崎高等学校における理系数学特講等）。なお、学校設定教科に関する科目は全て学校設定科目となる。学校設定教科と同様に学校が設けることができる。

て捉えられており、社会貢献を実感できる機会となっています。

また、幸高等学校及び高津高等学校で実施しているインターンシップでは、保育園や介護福祉施設、海上保安庁等、実際に企業等で仕事を体験することで、社会における自らの役割や他者との関係を認識することができるなど、働くことに対する意欲を高める機会となっています。

以上のことから、本項目については達成しましたが、生徒の「学ぶこと」や「働くこと」への意欲や積極的な態度を育成し、自らのキャリアをデザインできるよう、今後も引き続き、キャリア教育の内容を充実していきます。

ウ ICT 環境の整備

(ア) 第2次計画に位置付けられた取組

ICT 環境については、高津高等学校と橘高等学校において、無線 LAN 等の整備の充実を計画的に図ります。また、ネットワークを活用した市立高等学校間の連携や ICT 環境を活用した個に応じた教育等についても試行に取り組み、検証・改善しながら、実施します。

これらの取組については、普通科のみ設置されている高津高等学校において先行実施し、検証・改善を行い、橘高等学校、幸高等学校の普通科への取組につなげます。

(イ) 実績

- 令和2（2020）年度・令和3（2021）年度で幸高等学校、川崎総合科学高等学校、橘高等学校、高津高等学校に無線 LAN を導入しました。なお、川崎高等学校は平成26（2014）年度の校舍竣工時に整備しています。
- ネットワークを活用した市立高等学校間の連携として、令和4（2022）年度から、教員間でチャット等を活用した教科指導等における ICT 活用についての研究や情報交換を実施し、教員のスキルアップを図りました。
- ICT 環境を活用した個に応じた教育として、高津高等学校で実施している「Classi⁷」でのウェブテストや添削指導等について、令和3（2021）年度から川崎高等学校で、令和6（2024）年度から幸高等学校及び橘高等学校で開始しました。

⁷ Classi 株式会社が提供するアプリケーションのことで、生徒、教師、保護者が効果的にコミュニケーションをとり、学習活動をサポートすることができる。

ICT 環境を活用した学習



個別学習支援（高津高等学校）



オンライン授業（高津高等学校）

（ウ）検証

達成→取組継続

第2次計画策定以降に生じた新型コロナウイルス感染症が感染拡大したことに伴い、学校に登校できない生徒に対して ICT を活用した教育指導等を実施するため、橘高等学校と高津高等学校だけでなく、全校に無線 LAN 等の環境を整備しました。

計画よりも早期に整備したことにより、環境の変化に対応しながら生徒の学びを継続することができたほか、教材・教具や学習ツールの1つとして ICT を積極的に活用することで、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善につなげることができています。

以上のことから、本項目については達成しましたが、急速に進展する情報化社会において、生徒が情報や情報手段を正しく選択し活用する能力を身に付け、情報化社会に主体的に対応していけるよう、今後も引き続き、ICT 環境の更なる充実を図るとともに、ICT を活用した教育内容の充実にも取り組んでいきます。

エ 中学生の普通科志向

（ア）第2次計画に位置付けられた取組

中学生の普通科志向を踏まえ、幸高等学校普通科の入学者選抜での2学級募集を3学級募集へ拡大します。

（イ）実績

- 令和3（2021）年度に、幸高等学校普通科を2学級から3学級募集に変更しました。

(ウ) 検証

達成

本項目については達成しました。

表5のとおり、令和3（2021）年度の入学者選抜の競争率を見ると、普通科の定員を1学級分（40人）増やしましたが、競争率が前年度から大きく下がることはありませんでした。また、令和4（2022）年度以降も、競争率に大きな変動は見られないことから、中学生の普通科志向に即した変更であったといえます（ビジネス教養科の変更については、23頁「専門学科離れ」参照）。

表5 幸高等学校の入学者選抜の競争率

(%)

入学年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
学科	普通科2、ビジネス教養科4	→ 普通科3、ビジネス教養科3				
普通科	1.17	1.17	1.14	1.24	1.31	1.42
ビジネス教養科	0.86	1.20	1.10	1.10	1.10	1.18

※神奈川県公立高等学校入学者選抜一般募集共通選抜学力検査等受検状況（平成31（2019）年2月、神奈川県教育委員会）から（令和6（2024）年2月、神奈川県教育委員会）までを基に作成

(2) 中高一貫教育校の充実

ア グローバルコミュニケーション力

(ア) 第2次計画に位置付けられた取組

中高一貫教育校においては、様々な教科の特色を生かした教育課程の編成や、市のグローバル人財育成事業への積極的な参加等、教科、行事、特別活動を活用し、グローバルコミュニケーション力の向上につながる取組を進めます。

特に、海外研修について検証・評価を行い、さらに効果ある取組となるよう、また対象生徒に応じて、実施場所や語学力に応じた取組内容を検討する等、改善を図ります。

(イ) 実績

- グローバルコミュニケーション力の向上につながる取組として、令和元（2019）年度から開始した「Stanford e-Kawasaki⁸」に毎年参加しているほか、表6のとおり、令和5（2023）年度から、短期で海外から招いた留学生と在校生がともに授業を受ける「高校

⁸ 川崎市子ども・若者応援基金を活用した「グローバル人財育成事業」の1つで、アメリカのスタンフォード大学と連携し、約半年間、オンラインによる「多様性」や「アントレプレナーシップ（起業家精神）」等をテーマとした講義を受講し、グループディスカッションを行うほか、英語によるプレゼンテーション作成等の課題に取り組んでいる。

生スクールビジットプログラム」や、希望する在校生の家庭に留学生が泊まる「ホストファミリープログラム」を開始し、異文化交流を図りました。

- 表7のとおり、平成30（2018）年度から実施しているオーストラリアへの海外研修において、参加した生徒へのアンケート等を踏まえ、令和5（2023）年度から現地での授業を講義形式からグループディスカッション形式に変更する等、内容の改善に取り組みました。

表6 高校生スクールビジットプログラム及びホストファミリープログラムの実績

年度	留学生	ホストファミリープログラムに参加した家庭
R5 年度	インドネシア 35 人	—
	中南米（ブラジル等） 15 人	延べ 14 家庭に宿泊
R6 年度	インドネシア 10 人	—
	ハワイ 20 人	延べ 19 家庭に宿泊

※令和6（2024）年12月時点までの実績

表7 オーストラリアへの海外研修の参加人数

R2 年度	新型コロナウイルス感染症の影響により中止
R3 年度	新型コロナウイルス感染症の影響により中止
R4 年度	91 人が参加（高等学校全日制課程普通科1年生全生徒 113 人中）
R5 年度	95 人が参加（高等学校全日制課程普通科1年生全生徒 115 人中）

Stanford e-Kawasaki の様子



プレゼンテーション発表会



ゲイリー博士による特別講義

高校生スクールビジットプログラムの様子



習字の授業



参加者との記念撮影

オーストラリアへの海外研修の様子



現地の高校生との交流



現地の高校生との交流



一緒に授業を受ける様子

(ウ) 検証

更なる取組が必要

中高一貫の教育方針である「国際都市川崎をリードするたくましい人材の育成」の1つの柱であるグローバルコミュニケーション力の向上につながる取組については、川崎高等学校附属中学校の開校以来、中高一貫教育校の特色を生かし、6年間の段階的な取組として実施してきました。

川崎高等学校附属中学校では、英語を使った創作発表活動「English Challenge」や、令和4（2022）年度から、毎年5月にアジア各国から外国人生徒及び教員を30名程招いてホームステイや交流事業を実施する「日本語交流プログラム」等を実施しています。また、川崎高等学校では、海外への修学旅行や希望制によるオーストラリアへの海外研修、令和元（2019）年度から開始した「Stanford e-Kawasaki」への参加をはじめ、令和5（2023）年度からは中南米やインドネシア、ハワイ等から短期留学生を受け入れる「高校生スクールビジットプログラム」を実施し、グローバルコミュニケーション力の育成に取り組んできました。

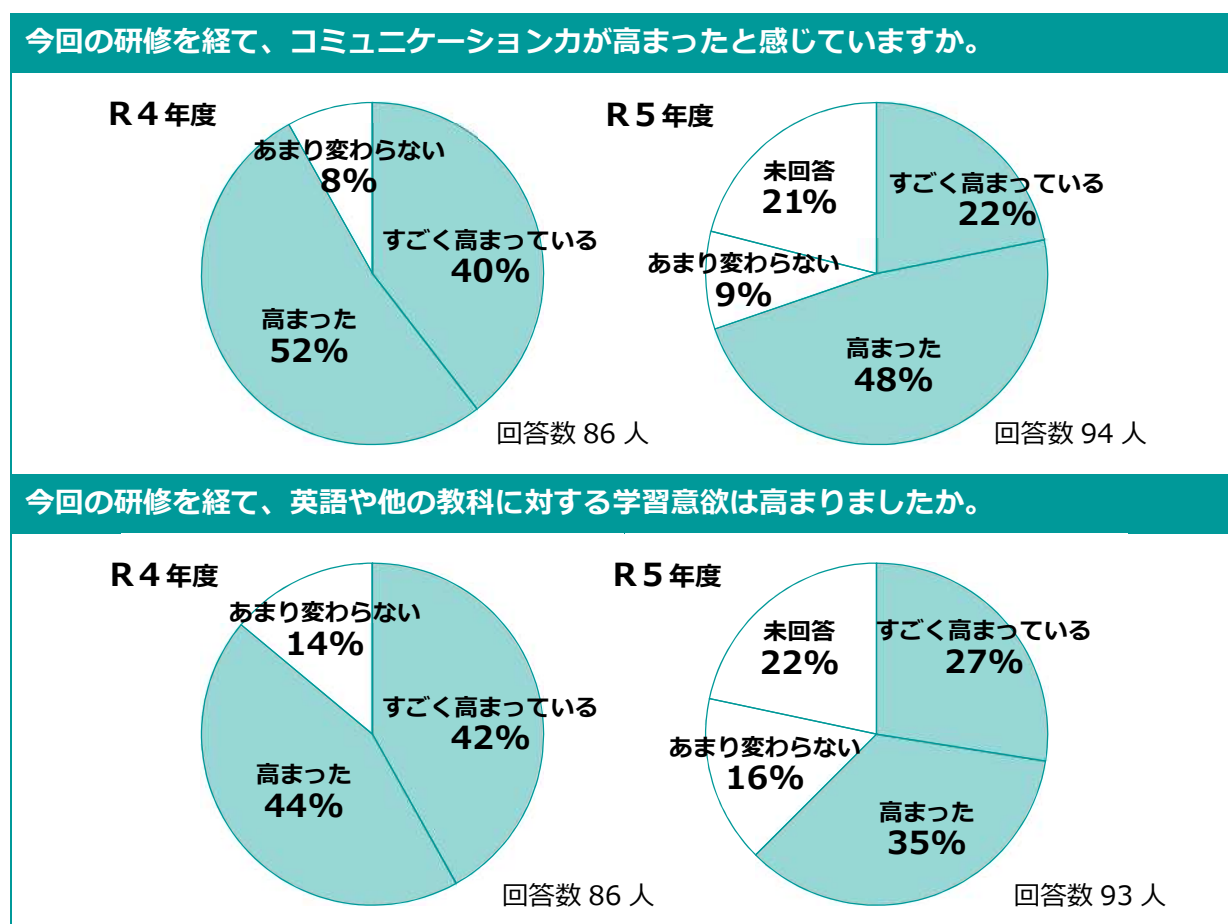
海外研修については、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、令和2（2020）年度・令和3（2021）年度は実施できませんでしたが、令和4（2022）年度から再開しました。ま

た、生徒アンケート等を踏まえて、令和5（2023）年度から現地での授業を講義形式からグループディスカッション形式に変更することで、より生徒が主体的に学べるよう、実施内容の改善を図ってきました。

図2のとおり、いずれの質問においても、生徒の半数以上から前向きな回答を得られており、特に、外国語や異文化、世界に関する関心についての質問では、9割以上の生徒が「すごく高まっている」、「高まった」と回答していることから、異文化理解に対する興味・関心を高めることに大きく寄与し、国際性を養うことにつながっているといえます。

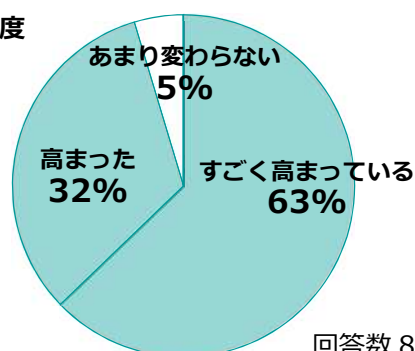
以上のことから、本項目については達成しましたが、国際社会で活躍するためには、日常的に世界共通の価値観に触れ、世界規模の課題に対応する姿勢を育めるよう、より多くの経験の場を設けることが重要です。生徒の自由意見からも、異文化交流や国際理解の学習の場がもっと欲しいとの声が寄せられており、更なる取組の充実が必要です。実際に海外に頻繁に出向くことは時間や費用面の課題はあるものの、学校内での体験を増やしていくなどの教育活動の充実や、中高一貫教育校の強みを生かした教育課程の編成など、今後、より一層グローバルコミュニケーション力の向上を図る取組について、検討を進めていきます。

図2 海外研修に参加した生徒へのアンケート結果（実施したR4年度、R5年度のみ）

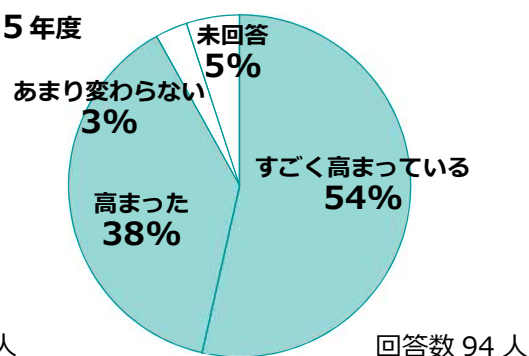


今回の研修を経て、外国語や異文化、世界に関する関心は高まりましたか。

R 4 年度

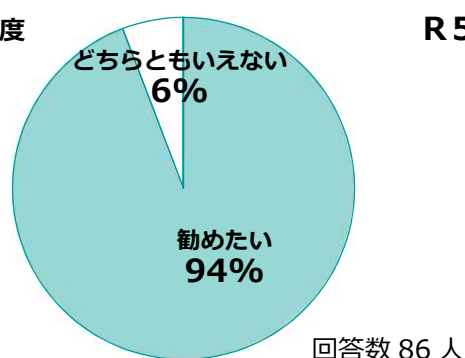


R 5 年度

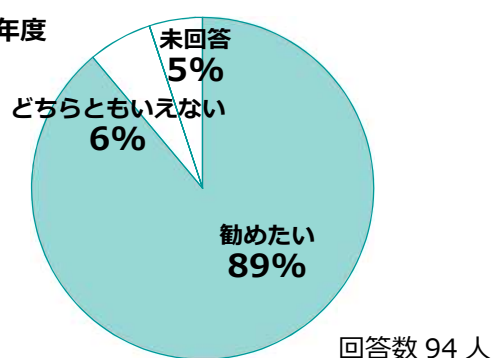


この海外研修を後輩にも勧めたいですか。

R 4 年度



R 5 年度



生徒からの自由意見（一部を抜粋）

この海外研修では、世界の広さと、世界への関心を引き出してくれました。英語で話す機会をこれからも、作っていきたいです。

これからの英語の勉強のモチベーションになるし、ホストファミリーとも仲良くなれて、すごくいい経験になりました。ホームステイだったからこそ、経験できたこともあったし、この高校生のうちに行けてよかったなと思いました。大学生や大人になったら、もっと英語を勉強して、もう一度留学してみたいなと思いました。

将来海外へ住みたいなどと思えるかも知れない体験だった。

もっと成長して、自分でいろいろ決断できるようになって、コミュカが上がったら、またオーストラリア行きたいなと思いました。

海外の良さに気づいた 海外大学を視野に入れたい。

リスニング力がすごく高まったのと、世界が広がって、生き方も広がった。近々絶対にもう一度行きたい。

海外に行くことで海外の価値観を知ることや、自分の英語のできなさに気づくことができるので、自分たちの人生において絶対にいい経験

今回の研修は本当に貴重な経験で、自分が大学生とか大人になったら、もう一度オーストラリアに行きたいなと思っていました。

イ 総合的な探究の時間

(ア) 第2次計画に位置付けられた取組

総合的な探究の時間についても、充実に向け、横浜国立大学等、大学や企業等と連携し、課題の発見・解決・調査・研究・発表・討議等について指導を受けるなど外部の知見を活用した取組を図ります。外部との連携に際しては、ICT 機器を効果的に使用し、更なる効果を上げるよう工夫します。

(イ) 実績

- 表8のとおり、令和4（2022）年度から開始した「総合的な探究の時間」において、川崎市をテーマにし、横浜国立大学等の大学、市役所、地元の企業等と連携した取組を実施し、外部の知見を活用した地域課題解決を目指す探究学習を実施しました。
- ICT 機器の活用では、同じく「総合的な探究の時間」において、各自のパソコンを活用した調べ学習や資料の整理、発表を実施しました。

表8 川崎高等学校における企業等と連携した総合的な探究の時間の主な取組

実施年度	取組内容
R4年度	食品ロスをなくすための啓蒙活動 大島保育園等での出前授業を実施
R5年度	駐輪場マップ作成と自転車の違法駐輪防止活動 川崎・幸区の29自治会と連携して実施
	川崎市の農業と「かわさきそだち」の啓蒙活動 東住吉小学校で「総合的な学習の時間」の出張授業
R5～6年度	「全国都市緑化かわさきフェア」事業との連携 不要紙を活用した種入り袋の作製、壁面緑化デザインの設置
R6年度	地元名物の知名度向上と商店街活性化 市内の食品店舗と連携して実施
	たばこによる健康被害や環境・景観悪化の改善 市内の企業と連携して実施
	子どもの健康と学習のサポート 子ども食堂と連携して実施
	地域の寺子屋事業への協力 玉川小学校の地域の寺子屋事業での学習支援を実施
	献血の啓蒙活動 川崎ブレイブサンダースと連携して実施

総合的な探究の時間の様子



全国都市緑化かわさきフェア



地域の寺子屋事業

(ウ) 検証

達成→取組継続

川崎高等学校の「総合的な探究の時間」では、生徒自ら ICT を活用して調査等を行っているほか、調査・研究・発表で終わることなく、生徒間での討議等から課題解決策の提案まで発展するなど、主体性を持って取り組んでおり、課題を発見し解決していくための資質・能力を育成しています。また、外部との協働による取組が増えており、地域社会の一員として、積極的に地域の課題解決に関わる素地を高校生の段階から身に付けられる取組であるといえます。

以上のことから、本項目については達成しましたが、川崎高等学校の教育方針である「国際都市川崎をリードするたくましい人材の育成」の実現に向けては、これまでの地域の身近な課題を主体的に解決する視点も大切にしながら、今後は、国際的かつ多角的な視野に立った課題設定や討議ができるよう、「総合的な探究の時間」の内容の充実及び発展を目指していきます。

ウ 特色ある中高一貫教育

(ア) 第2次計画に位置付けられた取組

現在実施している、学習会や学び合い等の取組について、進路目標や自己の学習到達度等に対応できるよう改善・充実を図ります。

中高一貫教育校における特色ある「学習指導要領等によらない特別の教育課程」⁹の編成により、中高6年間の体系的・継続的な学びの充実を図るため、これまで高等学校で実施していた普通科の選抜募集を停止します。

⁹ 「中等教育学校並びに併設型中学校及び併設型高等学校の教育課程の基準の特例を定める件（平成10年文部省告示第154号）」により、中等教育学校及び併設型の中高一貫教育校においては、高等学校での指導内容の一部を中学校に移行することが可能になるなど、教育課程の特例措置のことを指す。

(イ) 実績

- 令和 5（2023）年度から、毎週水曜日に学習会を設定し、部活動を休止しました。学習会では、生徒からの要望に基づく授業や個別での学習対応等、希望する大学への進学を中心とした生徒の進路希望の実現に向けた取組を実施しました。
- 「学習指導要領等によらない特別の教育課程」の編成は実施できませんでした。
- 令和 2（2020）年度に高等学校全日制課程普通科の令和 3（2021）年度入学生募集を停止しました。

(ウ) 検証

未達成→継続

中高 6 年間の体系的・継続的な学びについては、中学校 3 年生の授業に高等学校の教員がチーム・ティーチング¹⁰により参加することで、中学校から高等学校への授業の接続が円滑となるよう、開校当初から取り組んできました。

「学習指導要領等によらない特別の教育課程」の編成については、令和 2（2020）年度から高等学校全日制課程普通科の令和 3（2021）年度入学生募集を停止したことで、普通科の生徒全員が特例を活用した教育課程を受けられる体制となりましたが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大による通常とは異なる環境での教育指導や、新学習指導要領の実施（中学校は令和 3（2021）年度から全面实施、高等学校は令和 4（2022）年度から年次進行で実施）に伴う対応等により、特例を活用した教育課程を編成することができませんでした（48 頁「市立高等学校全日制課程における令和 6（2024）年度入学生の教育課程表」参照）。

特色ある中高一貫教育を行うためには、特例の活用等のほか根本的な教育指導体制の整備に取り組み、中高 6 年間を通した体系的・継続的な学びをより一層推進していく必要があります。開校から 10 年が経過し、この間、試行錯誤を重ねてきましたが、これまでの取組を振り返りながら、今後、川崎高等学校及び附属中学校の更なる魅力化・特色化に向け、教育課程の編成や教育指導体制の整備も含め、検討を進めていく必要があります。

¹⁰ 学級担当の教員が進める授業に、その教員とチームを組む他の教員が入り、生徒の習熟度などに合わせて担当教員を助力しながら行う授業の形態のこと。

2 全日制課程専門学科

全日制課程専門学科については、近年の専門学科離れに対応しつつ、生徒の進路実現を目指し、社会や産業の変化等、状況に応じた専門教育に取り組むとともに、専門学科の魅力を伝える情報発信に取り組めます。

(1) 進路実現を目指した専門教育

ア 専門教育

(ア) 第2次計画に位置付けられた取組

各校において専門学科で学んだことを生かし、進路実現が可能となるよう、持続可能な社会の構築、情報化の一層の進展、グローバル化への対応といった視点から、時代の変化やニーズに対応した科目構成や内容について検討・改善を進めることで、社会や産業の変化に対応できる人材の育成を目指した教育活動に取り組めます。

その1つとして、生徒が主体的に進路選択することができるよう、「かわさきキャリア在り方生き方教育」を推進するとともに、インターンシップを実施します。インターンシップについては、これまでの取組に加えて、実施先や期間、内容等を検討・改善し、より一層の充実を図ります。

(イ) 実績

- 令和4（2022）年度から川崎総合科学高等学校において、科学科を除いた専門学科の2年生を対象としてインターンシップを開始しました。表9のとおり、川崎総合科学高等学校の科学科、橘高等学校の国際科及びスポーツ科以外の職業に関する専門学科でインターンシップを実施し、令和2（2020）年度から令和5（2023）年度までに、計755件実施しました。また、令和4（2022）年度から幸高等学校では希望制からビジネス教養科の1年生全員を対象として変更し、実施内容の改善に取り組めました。
- 表10のとおり、令和4（2024）年度入学生以降の教育課程の編成において、大学進学や就職等の多様な進路選択が可能となるよう、全学科で選択科目を変更しました。

表9 インターンシップの実績

学校名	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	合計
川崎高等学校	106件	95件	139件	122件	462件
幸高等学校	18件	0件	111件	115件	244件
川崎総合科学高等学校	－	－	18件	31件	49件
合計	124件	95件	268件	268件	755件

インターンシップの様子



板金加工工場（幸高等学校）



鋳造工場（川崎総合科学高等学校）

表 10 選択科目の単位数の変化

学校名	学科	学年	R3 年度以前の入学生	R4 年度入学生以降
川崎高等学校	生活科学科	2 年	0 単位	0 単位
		3 年	0 単位	2 単位
	福祉科	2 年	0 単位	2 単位
		3 年	0 単位	2 単位
幸高等学校	ビジネス教養科	2 年	8 単位	2 単位
		3 年	8 単位	8 単位
川崎総合科学 高等学校	情報工学科	2 年	0 単位	0 単位
		3 年	4 単位	1 0 単位
	総合電気科	2 年	2 単位	2 単位
		3 年	4 単位	1 0 単位
	電子機械科	2 年	2 単位	2 単位
		3 年	4 単位	1 0 単位
	建設工学科	2 年	2 単位	2 単位
		3 年	4 単位	1 0 単位
	デザイン科	2 年	2 単位	2 単位
		3 年	4 単位	1 0 単位
	科学科	2 年	6 単位	6 単位
		3 年	1 4 単位	1 4 単位
橘高等学校	国際科	2 年	4 単位	5 単位※
		3 年	6 単位	1 4 単位※
	スポーツ科	2 年	2 単位	3 単位※
		3 年	6 単位	1 2 単位※

※橘高等学校では、令和 4（2022）年度・令和 5（2023）年度に教育課程を編成しているため、表には令和 5（2023）年度入学生以降の単位数を記載している。

(ウ) 検証

達成→取組継続

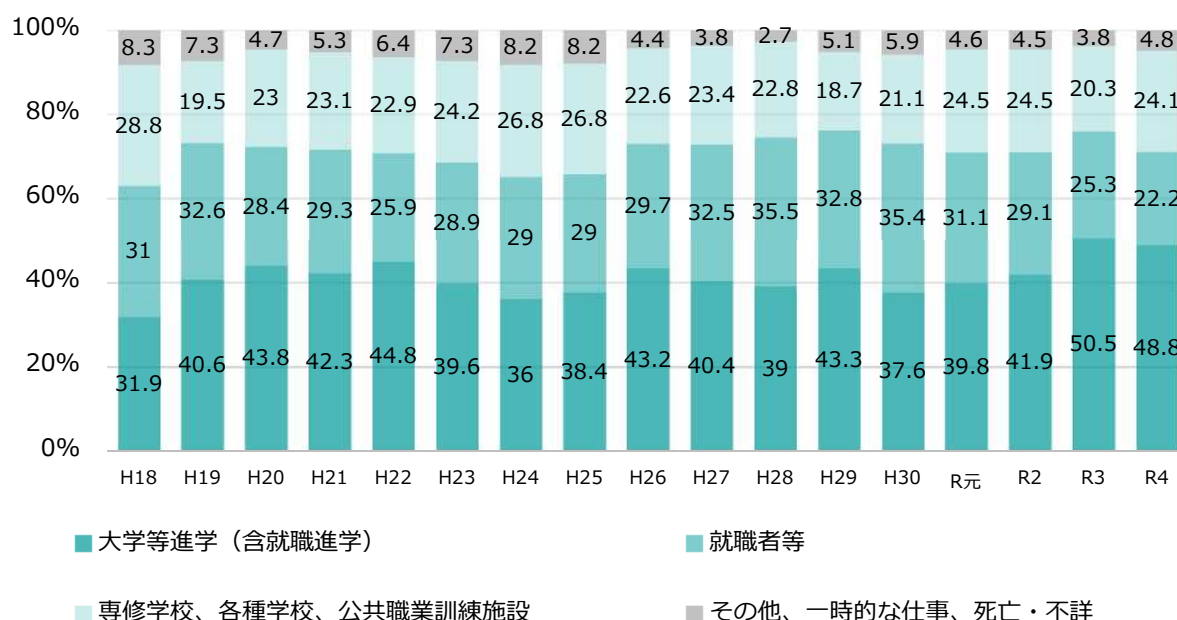
図3のとおり、近年、市立高等学校の専門学科卒業者の進路状況としては、就職よりも大学等への進学者が多い傾向にあることから、大学進学や就職等の多様な進路選択を可能とする教育課程の編成は、生徒のニーズに沿ったものであるといえます。

また、インターンシップについては、川崎高等学校では、福祉科が介護ケア事業所を訪問し、介護実習を行い、生活科学科では、飲食店や写真スタジオで取り組む等、各学科の特色に合わせた実習を行っています。その他、幸高等学校では幸区役所等と、川崎総合科学高等学校では臨海部にある工業関連企業等、地域の企業や団体と連携しながら実施しており、生徒と実社会との接点を増やすことで、生徒一人ひとりが自らの将来を考え、その実現に向けて必要な学びを能動的に行える取組となっています。

以上のことから、本項目については達成しましたが、生徒が自己の在り方や生き方を考え、主体的に進路を選択することができるよう、今後も引き続き、地域や企業、大学等と連携し、「キャリア在り方生き方教育」や職業教育に取り組んでいきます。

図3 市立高等学校全日制課程専門学科卒業者の進路状況の推移

(%)



※年刊教育調査統計資料 No.51（令和6（2024）年3月、川崎市教育委員会）を基に作成

※年度は卒業年度を表す。各卒業年度の翌年度5月1日時点の調査による。

イ 専門学科離れ

(ア) 第2次計画に位置付けられた取組

近年における中学生の普通科志向や志願状況を踏まえ、専門学科において、複数の学級を設置している幸高等学校ビジネス教養科の4学級募集を3学級募集へ変更します。

(イ) 実績

- 令和3（2021）年度に、幸高等学校ビジネス教養科を4学級から3学級募集に変更しました。

(ウ) 検証

更なる取組が必要

幸高等学校では、普通科の2学級から3学級募集と同時に、ビジネス教養科を4学級から3学級募集に変更したところ、変更前は入学志願者数が定員を下回る年もありましたが、変更後は入学者選抜の競争率を一定に保っています。

よって、第2次計画に位置付けられた取組としては達成しましたが、表11のとおり、幸高等学校以外の市立高等学校の全日制課程専門学科を見ると、相対的に高い入学者選抜の競争率を維持する学科もあれば、定員割れ傾向が続く学科もあります。

今後も、市立高等学校全体で専門学科離れに対する検討を進めていく必要があります。

表11 市立高等学校全日制課程専門学科における入学者選抜の競争率の推移 (%)

学校名	学科	入学年度					
		R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
川崎高等学校	生活科学科	1.13	0.97	1.18	0.79	0.90	1.10
	福祉科	0.90	1.21	0.62	1.00	0.79	0.85
幸高等学校	ビジネス教養科	0.86	1.20	1.10	1.10	1.10	1.18
川崎総合科学 高等学校	情報工学科	1.41	1.21	1.64	1.13	1.49	1.46
	総合電気科	1.08	0.85	1.03	0.90	1.00	0.90
	電子機械科	1.54	0.82	1.18	0.82	1.26	0.77
	建設工学科	1.31	1.00	1.05	0.87	1.05	1.13
	デザイン科	1.56	1.05	1.38	1.21	1.21	1.15
	科学科	0.97	1.41	1.51	1.08	1.33	1.05
橘高等学校	スポーツ科	1.28	1.54	1.23	1.15	1.15	1.44
	国際科	1.21	1.74	1.36	1.05	1.44	1.62

※神奈川県公立高等学校入学者選抜一般募集共通選抜学力検査等受検状況（平成31（2019）年2月、神奈川県教育委員会）から（令和6（2024）年2月、神奈川県教育委員会）までを基に作成

(2) 特色ある専門学科の情報発信

ア 情報発信

(ア) 第2次計画に位置付けられた取組

特色ある専門学科の取組や成果を中学校や地域等、外部へ積極的に紹介し、専門学科についての理解を広めるとともに、中学生の将来に対する視野を広げ、具体的にイメージできるよう取組を推進します。中学生に市立高等学校の専門学科を理解してもらうため、また専門学科の生徒の意欲を高めるため、各校における説明会等や市立高等学校専門学科の合同発表会開催等の取組を進めます。

(イ) 実績

- 令和4（2022）年度から、専門学科合同発表会を開始し、年度ごとに各学科で作成した動画を市のYouTube公式チャンネルに掲載しました（動画再生回数は表12を参照）。なお、当初は全校生徒が一同に会して発表会を行う予定でしたが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大による影響により、動画を用いた方法で実施することとしました。
- 令和4（2022）年度から、中学生を対象とした説明会において、専門学科合同発表会の動画を活用し、各学科の魅力を伝えました。

表12 川崎市 YouTube 公式チャンネル 動画再生回数 (回)

学校名	学科	R4 年度	R5 年度
川崎高等学校	生活科学科	396	1,089
	福祉科	372	857
幸高等学校	ビジネス教養科	394	1,416
川崎総合科学高等学校	情報工学科	545	975
	総合電気科	207	567
	電子機械科	229	603
	建設工学科	235	692
	デザイン科	374	994
	科学科	412	1,116
	クリエイト工学科※	332	475
	商業科※	485	574
橘高等学校	国際科	699	2,296
	スポーツ科	860	3,405
合計		5,540	15,059

※定時制課程の専門学科を含め、全専門学科の動画を作成した。

様々な情報発信の主な取組



オープニング動画



生徒作成ポスター



1年次より福祉の知識や技術を専門的に学びます
川崎高等学校福祉科の動画



幸高等学校ビジネス教養科の動画



当初の目標であった走行可能なシニアカーの製作と
川崎総合科学高等学校電子機械科の動画



背景に私の撮った神奈川県各地の写真や動画を使用する
川崎総合科学高等学校デザイン科の動画



1,2年で理数探究基礎について学び、
3年で理数探究として研究活動を行っています。
川崎総合科学高等学校科学科の動画



中学生を対象に、スポーツ科の学科説明の他、体験学習を実施しています。
橘高等学校スポーツ科の動画

(ウ) 検証

達成→取組継続

専門教育に関する教科及び科目が設置されている専門学科については、学科ごとに特色ある取組が行われているものの、その専門性から中学生に取組内容や学科の魅力が伝わりにくい状況にあります。そのため、新型コロナウイルス感染症の感染拡大がきっかけではあったものの、専門学科の魅力を動画にし、YouTube といった中学生の目に触れやすい媒体を活用することで、視聴回数も増加傾向にあるなど、当初予定していた発表会形式よりも、より広く魅力を発信できているといえます。

また、動画作成には生徒が主体的に関わり、生徒自ら学科の魅力を紹介するなど、生徒目線での学科紹介の内容となっており、中学生を対象とした学科説明会の参加者からは、「すごく分かりやすかった」「自分も行きたいと思ったなど」の意見も寄せられており、中学生が専門学科に対してイメージしやすい取組であるといえます。

以上のことから、本項目については達成しましたが、今後も引き続き専門学科の魅力を分かりやすく伝えていく必要があることから、YouTube のほか様々な広報媒体を活用し、内容も工夫しながら、魅力を発信していきます。

3 定時制課程

定時制課程については、社会状況の変化等に合わせた学級編成に取り組むとともに、複雑多様な課題を抱える生徒が多いことから、教員以外の人との協力を得ながらの自立支援や、個に応じた学びの充実に取り組みます。

(1) 定時制生徒自立支援の充実

ア 自立支援

(ア) 第2次計画に位置付けられた取組

現在、川崎高等学校、高津高等学校で実施している中途退学の防止や進路実現に向けた定時制生徒自立支援事業の充実に図ります。

具体的には、これまでの相談・個別サポートに加え、進路や将来について相談アドバイスができるキャリアサポートや生徒同士の学び合い等、学びの場を提供する学習サポートの充実に図ります。

また、橘高等学校、川崎総合科学高等学校についても、学校の状況に応じた事業の拡大を計画的に進めます。

(イ) 実績

- 定時制生徒自立支援事業の充実として、令和3（2021）年度から川崎高等学校でアルバイト体験とボランティア体験を開始し、キャリアサポートの充実に図りました。
- 表13のとおり、令和2（2020）年度から橘高等学校、令和4（2022）年度から川崎総合科学高等学校において定時制生徒自立支援事業（以下「学校内カフェ事業」という。）を開始しました。このことにより、既に実施している川崎高等学校及び高津高等学校を含めると、定時制課程を設置する全校で実施することができました。

表13 学校内カフェ事業の経過

実施年度	経過
H28年度	川崎高等学校においてモデル事業（定時制生徒自立支援業務委託事業）を開始
H29年度	高津高等学校においてモデル事業を開始
R元年度	第2次計画に定時制生徒自立支援事業を位置付け
R2年度	橘高等学校で開始
R4年度	川崎総合科学高等学校で開始

学校内カフェ事業の様子



川崎高等学校の様子



高津高等学校の様子

(ウ) 検証

達成→取組継続

表 14 のとおり、全校の 1 回当たりの利用者数は年々増加傾向にあり、令和 2（2020）年度の約 15 人から令和 5（2023）年度には約 30 人まで増加しました。学校内カフェ事業が生徒たちに認知され、日常的に利用されているといえます。また、アルバイト体験や面接練習といったキャリアサポートのほか、地域みまもり支援センターの保健師や社会福祉職等の専門職による相談会や食糧支援等、福祉的な支援もカフェを利用する生徒に対し行われており、本取組が社会や必要な支援につながるきっかけづくりとなっています。

4 校の中で 1 番早く開始した川崎高等学校では、令和 5（2023）年度には、定時制課程の生徒のうち 59.8%が学校内カフェ事業を利用しており、生徒の居場所として定着しているといえます。川崎総合科学高等学校では、令和 4（2022）年度の開始から模擬面接やキャリア教育に関するワークショップを実施しており、早くも学校全体に学校内カフェ事業が認知され始めています。橘高等学校では、令和 4（2022）年度からソーシャルスキルトレーニングを開始し、円滑な人間関係を構築するための振舞い方や話し方を習得する機会を提供しています。高津高等学校では、季節ごとのイベントを実施するなど、生徒が通いたくなる居場所づくりが実践されています。

以上のことから、本項目については達成しましたが、学校内カフェ事業は生徒からの需要が高く、また、複雑多様な課題を抱える生徒が多数利用していることから、今後も引き続き、福祉等の関係機関とも連携しながら、生徒の自立支援に向けた様々な取組の充実を図っていきます。

表 14 学校内カフェ事業の実施回数及び利用者数（第 2 次計画以降）

学校名	R 2 年度		R3 年度		R4 年度		R5 年度	
	回数	延べ利用者	回数	延べ利用者	回数	延べ利用者	回数	延べ利用者
川崎高等学校	16	330 人	25	941 人	30	941 人	29	1,479 人
川崎総合科学高等学校	—	—	—	—	27	324 人	27	337 人
橘高等学校	27	192 人	13	158 人	26	598 人	22	755 人
高津高等学校	35	668 人	35	1,020 人	35	1,396 人	33	804 人
合計	78	1,190 人	73	2,119 人	118	3,259 人	111	3,375 人
1 回当たりの利用者	15.3 人		29.0 人		27.6 人		30.4 人	

（２）定時制における学びの充実

ア 学びの充実

（ア）第 2 次計画に位置付けられた取組

定時制生徒の基礎学力の定着や学び直し等、様々な学習ニーズに対応した学びの充実を図るため、始業前や放課後に個別学習を行う等、生徒の学習機会の確保を図ります。特に、日本語指導の必要な生徒に対してのサポートや学校の支援体制のより一層の充実を図ります。

（イ）実績

- 全校において放課後の学習支援に継続して取り組んだほか、令和 6（2024）年度から、橘高等学校において、授業開始前に実施している個別学習支援について、特別支援教育サポーター¹¹の派遣回数を月 5 回から月 20 回に増やしました。
- 令和 5（2023）年度から、川崎高等学校定時制課程に日本語学習コースを設置しました。

日本語学習コースの様子



日本語の授業



日本語の授業

¹¹ 発達障害を含む様々な障害のある児童生徒に対し、学校生活上の介助や学習活動上の支援等を行うことを目的として、学校の希望に基づき配置される。

(ウ) 検証

更なる取組が必要

表 15 のとおり、本市における外国人児童生徒数は右肩上がりであり、平成 30（2018）年度から令和 5（2023）年度までに、約 2 倍に増加しました。

川崎高等学校では、卒業時に日本語の壁による社会へのつまづきを取り除くことを目指し、令和 5（2023）年度から主に外国人生徒を対象とした日本語学習コースを設置し、学校設定教科「日本語」を週 4 時間設定しています。英語、中国語、フィリピン語が話せる非常勤の教員や日本語指導の常勤の教員を配置するほか、多文化教育コーディネーターが教員とともに、キャリア支援や通訳・翻訳、生活・学習支援、日本語や多文化共生に係る研修、教育相談等を実施しています。

また、第 2 次計画策定以前から、基礎学力の定着や学び直し等のニーズに応えるため、全校で放課後に学習支援を実施してきたほか、橘高等学校では、授業開始前の時間に教員と特別支援教育サポーターによる個別学習支援を実施しており、生徒の希望に合わせて検定試験対策や学び直しへの対応等を行っています。令和 6（2024）年度からは、特別支援教育サポーターの派遣回数を月 5 回から 20 回に増やし、さらにきめ細やかに対応できるよう、体制を整えました。

以上のことから、本項目については達成しましたが、図 4 及び図 5 のとおり、市立高等学校に配置されている支援教育コーディネーター¹²に対するヒアリングからは、全日制課程と比較して、定時制課程には支援が必要な生徒が多数在籍していること、特に、学習面、行動面又は対人面での支援が必要な生徒が多くなっていることから、複雑多様な課題を抱える生徒が卒業後も社会の中で自立できるよう、より一人ひとりに応じたきめ細やかな学習支援等を行っていく必要があります。また、表 16 のとおり、全日制課程と比較して定時制課程の退学者率が高いことから、生徒が最後まで学校に通えるための支援についても検討していく必要があります。

表 15 市立学校における外国人児童生徒数

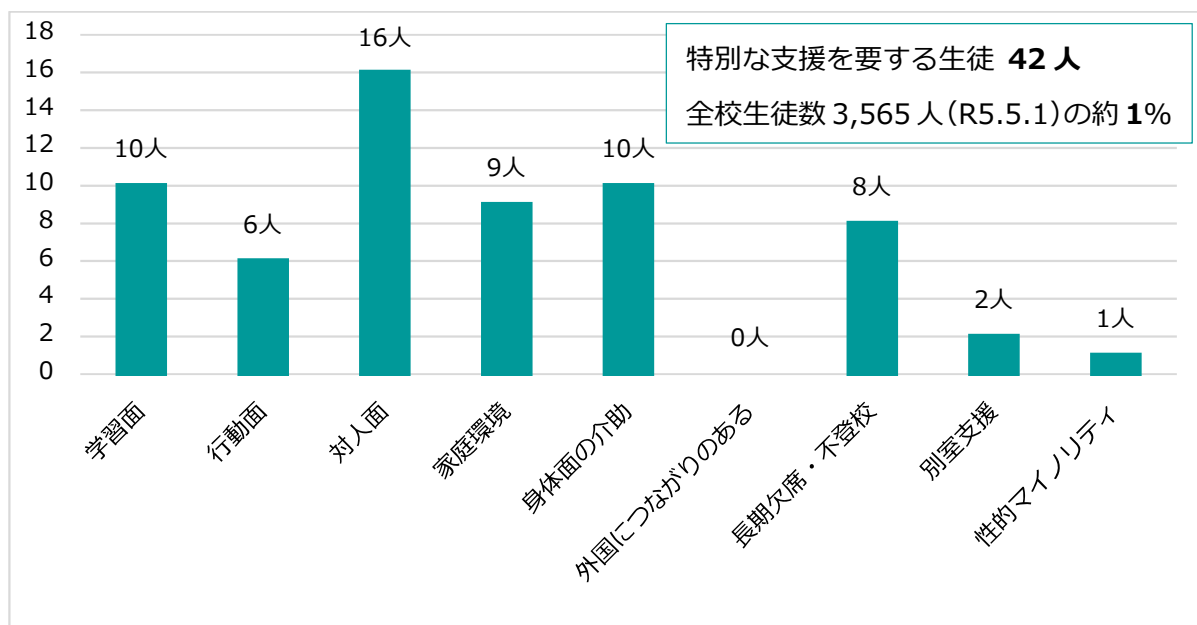
校種	H30 年度	R 元年度	R2 年度	R3 年度	R4 年度	R5 年度
小学校	690 人	869 人	971 人	1,190 人	1,253 人	1,447 人
中学校	195 人	218 人	251 人	285 人	277 人	305 人
高等学校	16 人	34 人	30 人	18 人	23 人	35 人
合計	901 人	1,121 人	1,252 人	1,493 人	1,553 人	1,787 人

※年刊教育調査統計資料 No.46（平成 31（2019）年 3 月、川崎市教育委員会）から No.51（令和 6（2024）年 3 月、川崎市教育委員会）までを基に作成

※当該年度 5 月 1 日時点の調査による。

¹² 生徒指導、生徒及び保護者からの教育相談、特別支援教育の 3 つの役割を持ち、関係機関との連携の窓口となるなど、校内支援体制の中核を担う教員のこと。

図4 特別な支援を要する市立高等学校全日制課程生徒への支援内容（令和5（2023）年度）



※全日制課程の支援教育コーディネーター 5 人に聞き取りした結果を基に作成

※生徒の特性に応じて実施した支援を、次の項目別に分類して計上（1 人の生徒に対して複数の支援を行った場合は、該当する項目全てに計上。図 5 において同じ。）

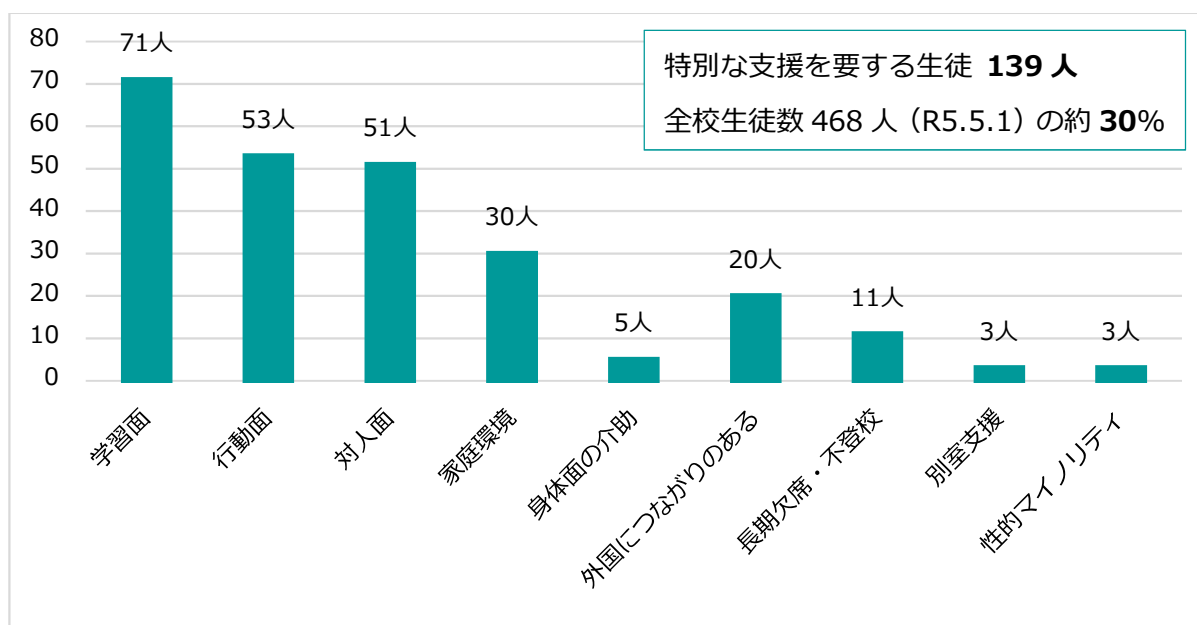
学習面…聞く、話す、読む、書く、計算する、推論することにつまずきのある生徒

行動面…不注意、多動性、衝動性が見られる生徒

対人面…円滑な対人関係を築くことが難しい又は強いこだわり等のある生徒

長期欠席・不登校…現在長期欠席、不登校の生徒

図5 特別な支援を要する市立高等学校定時制課程生徒への支援内容（令和5（2023）年度）



※定時制課程の支援教育コーディネーター 4 人に聞き取りした結果を基に作成

※条件は図 4 と同様

表 16 市立高等学校生徒の異動状況

課程	年度	各年度 当初の 在籍者	転出者	転出率	転出後の 状況	退学者	退学者率	主な退学理由													
								学業不振	活に熱意がない	もともと高校生 かな	授業に興味がない	人間関係がうまく保てない	学校の雰囲気が合わない	その他不適応	進路変更	問題行動	病気・けが	経済的理由	家庭の事情	死亡	仕事の多忙・勤務 先の事情
全日制課程	H26	3,650	26	0.7%	通信 17 その他 9	18	0.5%	2	2	－	－	－	2	7	－	－	－	5	－	－	－
	H27	3,700	20	0.5%	通信 18 その他 2	17	0.5%	2	2	－	2	1	3	5	－	2	－	－	－	－	－
	H28	3,743	21	0.6%	通信 20 その他 1	26	0.7%	11	－	5	1	1	1	3	－	1	1	1	1	－	－
	H29	3,735	23	0.6%	通信 19 その他 4	28	0.7%	3	－	－	3	2	2	15	－	3	－	－	－	－	－
	H30	3,709	35	0.9%	通信 33 その他 2	16	0.4%	5	－	2	1	－	－	6	－	2	－	－	－	－	－
	R 元	3,707	31	0.8%	通信 30 その他 1	17	0.5%	－	1	3	－	1	－	7	－	－	－	1	1	－	3
	R2	3,684	27	0.7%	通信 19 その他 8	11	0.3%	－	2	3	－	－	1	3	－	1	－	1	－	－	－
	R3	3,643	38	1.0%	通信 35 その他 3	20	0.5%	－	2	1	1	3	－	9	－	2	－	1	1	－	－
	R4	3,598	31	0.9%	通信 29 その他 2	11	0.3%	－	－	－	1	－	3	2	－	2	－	2	1	－	－

定時制課程	H26	1,138	5	0.4%	通信 5	149	13.1%	12	18	45	4	5	9	34	2	2	－	12	－	3	3
	H27	1,043	7	0.7%	通信 2 その他 5	97	9.3%	4	10	6	3	3	8	32	－	3	－	15	－	8	5
	H28	931	6	0.6%	通信 1 その他 5	93	10.0%	14	10	5	4	3	－	28	－	4	－	3	－	16	6
	H29	927	12	1.3%	通信 9 その他 3	102	11.0%	22	21	2	7	8	8	14	8	1	－	5	－	2	4
	H30	814	4	0.5%	通信 1 その他 3	76	9.3%	19	18	7	5	1	6	11	－	3	－	5	1	－	－
	R 元	726	6	0.8%	通信 4 その他 2	46	6.3%	5	9	1	4	－	7	7	－	6	－	1	－	6	－
	R2	663	5	0.8%	通信 5	50	7.5%	－	20	3	－	1	11	－	6	4	5	－	－	－	
	R3	579	3	0.5%	通信 1 その他 2	39	6.7%	8	3	5	－	1	4	12	－	2	－	3	－	1	－
	R4	515	1	0.2%	通信 1	51	9.9%	3	15	－	3	2	8	11	－	4	－	4	－	－	1

※年刊教育調査統計資料 No.43（平成 28（2016）年 3 月、川崎市教育委員会）から No.51（令和 6（2024）年 3 月、川崎市教育委員会）までを基に作成
 ※当該年度の翌年度 5 月 1 日時点の調査による。

イ 学級編成

(ア) 第2次計画に位置付けられた取組

近年、大幅な定員割れを続けている高津高等学校定時制課程の3学級募集を2学級募集へ変更します。

また、ニーズの高い昼間部への進学希望に対応するため、川崎高等学校定時制昼間部の枠を拡大し、川崎高等学校定時制夜間部の募集を停止します。

(イ) 実績

- 令和3（2021）年度に、高津高等学校定時制課程を3学級から2学級募集に変更しました。
- 令和3（2021）年度に、川崎高等学校の昼間部を2学級から4学級募集に変更し、夜間部の募集を停止しました。

(ウ) 検証

更なる取組が必要

第2次計画に位置付けられた取組としては達成しましたが、表17のとおり、高津高等学校定時制課程では、1学級分定員を減らした令和3（2021）年度以降も定員に対する充足率が100%に至っていない状況が続いています。また、高津高等学校だけではなく、その他の市立高等学校定時制課程においても、充足率が低い状況が続いています。

一方で、市立高等学校で唯一昼間部がある川崎高等学校定時制課程においては、2学級分定員を増やしたにもかかわらず、他の市立高等学校定時制課程と比べて高い充足率（令和2（2020）年度から6（2024）年度までの5か年平均で約55%）を維持しています。令和2（2020）年度の川崎高等学校定時制課程夜間部の充足率が27%であったことを考えると、学習時間帯が入学希望者のニーズに適していたといえます。

また、昼間部の充足率が高いことの要因の1つとして、勤労青少年の減少が挙げられます。図6のとおり、国全体の定時制課程に通う生徒の就業状況を見ると、昭和57（1982）年度は約7割が正社員であったものが、平成28（2016）年度には約9割がパート等及び無職となっています。

以上のことから、本項目については達成しましたが、定時制課程は、これまで働きながら学ぶ青年に対し教育の機会均等を保障することを目的としてきましたが、今後は、社会状況等の変化に対応し、生徒の求める教育ニーズに合わせた教育課程の編成を行う必要があります。

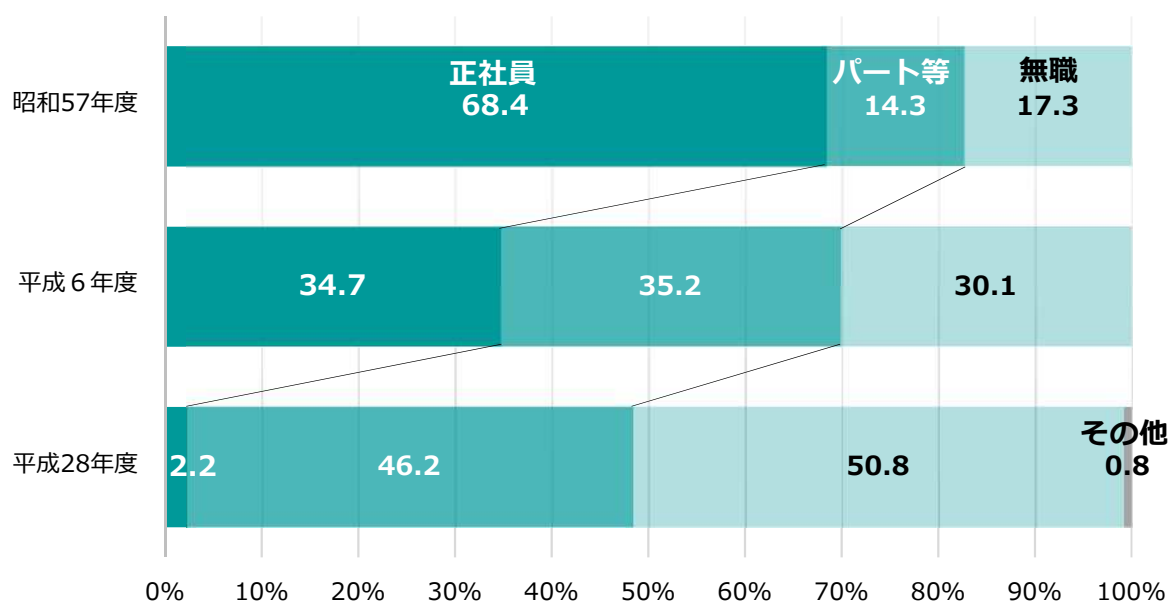
表 17 市立高等学校定時制課程における定員に対する充足率（各年度 5 月 1 日時点）

学校名	学科	充足率（下段 入学者/定員）					
		R2 年度	R3 年度	R4 年度	R5 年度	R6 年度	5 か年平均
川崎高等学校	普通科（昼間）	83% 58/70	49% 68/140	44% 61/140	64% 85/132	59% 78/132	57%
	普通科（昼間）在県 外国人等特別募集※1	—	—	—	63% 5/8	25% 2/8	
	普通科（夜間）	27% 19/70	—	—	—	—	—
川崎総合科 学高等学校	クリエイト 工学科（夜間）	31% 11/35	46% 16/35	29% 10/35	26% 9/35	29% 10/35	32%
	商業科（夜間）	11% 4/35	9% 3/35	11% 4/35	6% 2/35	11% 4/35	10%
橘高等学校	普通科（夜間）	40% 28/70	51% 36/70	34% 24/70	37% 26/70	39% 27/70	40%
高津高等学校	普通科（夜間）	30% 31/105	34% 24/70	40% 28/70	29% 20/70	51% 36/70	36%

※ 1 在県外国人等特別募集…外国の国籍を有する者(難民として認定された者を含む。)で、入国後の在留期間が通算 6 年以内のものが志願できる特別募集の 1 つ。総定員のうち一般募集とは別に募集定員が設けられる。

図 6 全国における定時制課程生徒の就業状況の変化

(%)



※「定時制・通信制高等学校における教育の質の確保のための調査研究」報告書（平成 29（2017）年度文部科学省）を基に作成

第3章 検証結果

本章では、第2章で検証した第2次計画に位置付けられた各取組の実績と課題について、今後取り組むべき4つの課題としてまとめるとともに、社会状況の変化等に伴い、第2次計画策定以降に顕在化した課題も含めて、今後新たに検討しなければならない3つの方向性として示します。

1 第2次計画の検証結果まとめ

第2次計画に位置付けられた各取組の実績及び検証結果を、表18のとおりまとめました。

検証結果のうち、「達成」については計画に位置付けられた取組を実施し、目的を達成したため、本検証をもって終了することとし、「達成→取組継続」については、計画に位置付けられた取組としては達成したものの、引き続き、内容の充実や改善等を図りながら、継続して取り組むこととします。

「更なる取組が必要」及び「未達成→継続」については、計画に位置付けられた取組としては達成したものの、新たな課題等があることから更なる取組が必要であるもの又は未達成であり、今後も継続が必要な取組であり、これらを今後も取り組むべき課題としてまとめると、大きく分けて4つあります。

1つ目は、「教科等横断的な学びの強化の必要性」です。大学入学者選抜が大きな影響を与える高等学校教育においては、知識の暗記・再生に偏った教育指導に陥りがちですが、今後、「総合型選抜」による大学入学者選抜が増えていくことが予想されることに加え、国の「第4期教育振興基本計画（令和5（2023）年6月策定）¹³」においても、文理横断的・探究的な教育の推進を目指していることから、教科等横断的な学びの実施により、生徒の思考力・判断力・表現力や、主体性を持って多様な人々と協働する態度等を育成していく必要があります。また、本市では、これまで「総合的な探究の時間」の取組を強化してきましたが、今後は、各教科での学習を結び付ける教育活動の核の1つとして「総合的な探究の時間」を位置付け、取組の充実をより一層図るとともに、教科等横断的な学びの更なる充実に向け、全校での教育課程の編成及び編成した教育課程を組織的かつ計画的に評価・改善していく仕組みづくりについて、検討を進めていく必要があります。

2つ目は、「中高一貫教育の見直しの必要性」です。第2次計画に位置付けられた取組として、「学習指導要領等によらない特別的教育課程」の編成について未達成となりましたが、特色ある中高一貫教育を行うためには、特例を活用した教育課程の編成のほか、根本的な教育指導体制の整備等に取り組み、中高6年間を通した体系的・継続的な学びをより一層推進していく必要があります。

¹³ 教育基本法（平成18年法律第120号）に示された理念の実現と、国の教育振興に関する施策の総合的・計画的な推進を図るため、同法第17条第1項の規定に基づき政府として策定した計画のこと。

ります。また、川崎高等学校及び川崎高等学校附属中学校は、「国際都市川崎をリードするたくましい人材の育成」を教育方針に掲げ、様々な取組を実施してきましたが、国際社会で活躍するための資質・能力の育成に向けては、これまでの取組の充実のほか、中高一貫教育校の強みを生かした教育課程の編成など、グローバルコミュニケーション力の向上をより一層図る取組を検討していく必要があります。開校から10年が経過し、これまでの取組を振り返りながら、今後、川崎高等学校及び附属中学校の魅力化・特色化に向け、教育課程の編成や体制整備も含め、検討を進めていきます。

3つ目は、「専門学科の定員割れへの対応の必要性」です。第1次計画に続き、第2次計画においても再編を進めてきましたが、現状においても、相対的に高い入学者選抜競争率を維持する学科もあれば、定員割れ傾向が続く学科もあります。今後は、定員割れの解消に向け、生徒の教育ニーズを捉えながら各学科の魅力化・特色化をより一層図るとともに、市立高等学校全体で専門学科離れに対する検討を進めていく必要があります。

4つ目は、「教育ニーズに合わせた定時制課程の在り方検討の必要性」です。定時制課程には学習面、行動面及び対人面での支援が必要な生徒が多数在籍しており、複雑多様な課題を抱える生徒が卒業後も社会の中で自立できるよう、より一人ひとりに応じたきめ細やかな学習支援等を行っていく必要があります。一方で、昼間部のある川崎高等学校の定員充足率は比較的高いことから、定時制課程そのものに対する一定のニーズはあるものの、夜間部であるその他の定時制課程の平均充足率は50%を下回る水準で近年推移しており、これまで働きながら学ぶ青年に対し教育の機会均等を保障することを目的としてきた定時制課程は、今後、社会状況等の変化に対応し、生徒の求める教育ニーズに合わせた在り方を検討していく必要があります。

なお、これら4つの課題については、市立高等学校の今後の方向性を検討するに当たって、引き続き取り組むべき課題とします。

表 18 第2次計画に位置付けられた各取組の実績及び検証結果まとめ

項目		実績	検証結果及び今後取り組むべき課題
魅力ある普通 科教育の推進	カリキュラム・マネ ジメント	● 教科等横断的な教育課程の一部実施（幸、高津） ● 地域や学校の実態に応じた教育課程編成 ● 組織的・計画的な評価&改善未実施	更なる取組が必要 ①教科等横断的な学びの強化の必要性
	キャリア教育	● キャリアに関する学校設定教科・科目の設置（高津） ● インターンシップの実施（幸、高津）	達成→取組継続
	ICT 環境の整備	● 無線 LAN 導入（全校） ● ICT を活用した学習実施（幸、高津）	達成→取組継続
	中学生の普通科志向	● 幸高等学校普通科を 2→3 学級募集に変更	達成
中高一貫教育 校の充実	グローバルコミュ ニケーションカ	● 異文化交流の実施 ● オーストラリアへの海外研修の内容改善	更なる取組が必要 ②中高一貫教育の見直しの必要性
	総合的な探究の時間	● 地元企業等と連携した取組を実施	達成→取組継続
	特色ある中高一貫 教育	● 「学習指導要領等によらない特別の教育課程」の編成未実施 ● 高等学校普通科の募集停止	未達成→継続 ②中高一貫教育の見直しの必要性
進路実現を目 指した専門教 育	専門教育	● インターンシップの実施（川崎、幸、川崎総合科学） ● 大学進学や就職等の多様な進路選択が可能となるよう、選択科目変更	達成→取組継続
	専門学科離れ	● 幸高等学校ビジネス教養科を 4→3 学級募集に変更	更なる取組が必要 ③専門学科の定員割れへの対応の必要性
特色ある専門 学科の情報発 信	情報発信	● 各学科の紹介動画を生徒主体で作成し、YouTube 配信や中学生向け説明会で活用	達成→取組継続
定時制生徒自 立支援の充実	自立支援	● アルバイト体験等、キャリアサポートの充実（川崎） ● 定時制生徒自立支援事業の全校実施（橘、川崎総合科学）	達成→取組継続
定時制におけ る学びの充実	学びの充実	● 授業開始前の個別学習支援におけるサポート体制の充実（橘） ● 日本語学習コースを設置（川崎）	更なる取組が必要 ④教育ニーズに合わせた定時制課程の在り方検討の必要性
	学級編成	● 高津高等学校定時制課程を 3→2 学級募集に変更 ● 川崎高等学校昼間部を 2→4 学級募集に変更、夜間部の募集停止	更なる取組が必要 ④教育ニーズに合わせた定時制課程の在り方検討の必要性

2 第2次計画策定以降に顕在化した課題

市立高等学校の今後の方向性を検討するに当たっては、第2次計画の検証だけではなく、社会状況の変化等に伴い、第2次計画策定以降に顕在化した事象についても併せて対応を検討する必要があります。子どもを取り巻く様々な状況や課題から、市立高等学校の今後の方向性に影響を与えると想定されるものを取り上げます。

(1) 少子化の進行

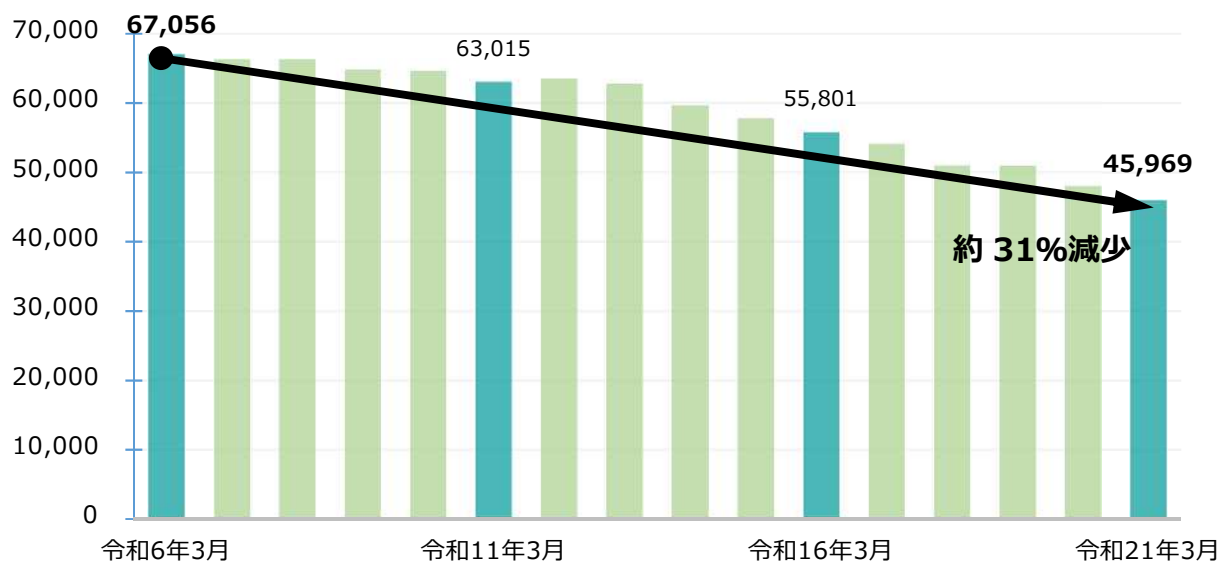
文部科学省の諮問機関である中央教育審議会初等中等教育分科会の資料によると、日本の15歳人口は令和11（2029）年に100万人を割り込み、令和19（2037）年に約78万人となると予測されており、令和5（2023）年と比較して、約28%減少するとされています¹⁴。

また、神奈川県内の中学校卒業生についても、図7のとおり、令和20（2038）年度には、令和5（2023）年度と比較して約31%（令和19（2037）年度は約28%）減少する見込みとなっており、国の推計と一致しています。

以上のことから、今後の少子化の進行を見据え、市立高等学校全体の適正な配置及び規模について、検討していく必要があります。

図7 神奈川県内における中学校卒業生の動向

(人)



※令和6（2024）年度第2回神奈川県公私立高等学校協議会資料を基に作成

¹⁴ 「高等学校教育の在り方ワーキンググループ中間まとめ参考資料集（2/2）」（令和5（2023）年8月31日）から引用

(2) 市外流出増加及び通信制課程進学者の増加

表 19 のとおり、神奈川県立高等学校の通学区域が県内 1 学区となった平成 17（2005）年度入学者である平成 16（2004）年度の市立中学校卒業予定者の進路希望状況と、第 2 次計画策定以降の状況を比較すると、市立高等学校への進学希望者は平成 16（2004）年度の 20.5%から直近 4 か年平均で約 16.0%に減少しています。

一方、市外（県外）国公立高等学校への希望者は、平成 16（2004）年度の 9.4%から直近 4 か年平均で約 18.5%と、約 2 倍に増加しています。市外（県外）国公立高等学校への希望者が増加している要因については断定できませんが、結果として、市外流出が増加しているといえることから、今後、市立高等学校の魅力化・特色化をより一層推進していく必要があります。

また、近年、大きな変化として挙げられるのが通信制課程を希望する生徒の増加です。通信制課程への進学希望者は、平成 16（2004）年度の 0.7%から直近 4 か年平均で約 3.9%に増加しています。一方、対照的なのが定時制課程への進学希望者で、平成 16（2004）年度の 1.2%から直近 4 か年平均で約 1.0%となっており、大きな変化はありません。定時制課程が変わらない中、通信制課程が増加した要因の 1 つとしては、34 頁の図 6 のとおり、勤労青少年が減少する中で、生徒を取り巻く環境や求める教育ニーズが変化してきたことが考えられます。今後は、こうした社会状況の変化や生徒が求める教育ニーズ等に合わせた高等学校の在り方を検討していく必要があります。

表 19 市立中学校卒業予定者の進路希望状況の推移（構成比）

卒業予定年度		H16	R2	R3	R4	R5	4 か年平均
市立中学校卒業予定者数		8,133 人	9,624 人	9,908 人	10,214 人	9,929 人	
高等学校等進学希望	全日制課程						
	川崎市立	20.5%	16.3%	14.7%	16.0%	17.0%	16.0%
	市内県立	41.4%	37.1%	38.7%	35.7%	36.0%	36.9%
	市外(県外)国公立	9.4%	18.4%	18.7%	18.2%	18.5%	18.5%
	私立	18.1%	17.6%	17.8%	19.1%	17.6%	18.0%
	県内公立希望校未定	3.4%	0.7%	0.6%	0.2%	0.5%	0.5%
	定時制課程	1.2%	0.9%	1.0%	1.0%	1.1%	1.0%
	通信制課程	0.7%	3.5%	3.8%	4.0%	4.3%	3.9%
	高等学校別科	—	—	0.0%	—	—	0.0%
	高等専門学校・中等教育後期	0.1%	0.1%	0.2%	0.2%	0.3%	0.2%
	特別支援学校高等部	0.6%	1.5%	1.5%	1.7%	1.8%	1.6%
専修学校・各種学校希望		0.3%	0.1%	0.2%	0.5%	0.3%	0.3%
公共職業能力開発施設等希望		0.0%	—	0.0%	—	—	0.0%
就職（就職のみ）希望		0.6%	0.1%	0.2%	0.1%	0.1%	0.1%
その他※		0.3%	0.2%	0.1%	0.1%	0.2%	0.1%
進路未決定		3.2%	3.5%	2.5%	3.3%	2.4%	3.0%

※年刊教育調査統計資料 No.51（令和 6（2024）年 3 月、川崎市教育委員会）を基に作成

※各卒業年度の 10 月 20 日時点における当該年度市立中学校卒業予定者への調査による。

※各構成比は各市立中学校卒業予定者数に対する割合（％）

※「その他」には、進学準備、家事手伝い、入院・療養者、海外の高等学校への進学等を含む。

(3) 高津高等学校校舎の目標耐用年数経過

表 20 のとおり、市立高等学校の中で最も古い校舎は、昭和 33（1958）年に竣工された高津高等学校の旧校舎になります。次いで、同校の新校舎が 2 番目に古い校舎となっています。

第 2 次計画においては、平成 26（2014）年度に策定した「学校施設長期保全計画」に基づく取組とし、改築等を行わないこととしておりましたが、令和 19（2037）年度には、高津高等学校旧校舎は同計画で設定している目標耐用年数 80 年を経過することから、今後の対応を検討する必要があります。

表 20 市立高等学校校舎の竣工年月及び築年数

学校名・校舎		竣工年月	築年数※
川崎高等学校		平成 26（2014）年 7 月	10 年
幸高等学校		昭和 62（1987）年 2 月	38 年
川崎総合科学高等学校	実習棟	昭和 61（1986）年 3 月	38 年
	旧校舎	昭和 62（1987）年 9 月	37 年
	新校舎	平成 4（1992）年 9 月	32 年
橘高等学校		平成 12（2000）年 12 月	24 年
高津高等学校	旧校舎	昭和 33（1958）年 3 月	66 年
	新校舎	昭和 50（1975）年 1 月	50 年

※令和 7（2025）年 2 月現在

3 今後の検討の方向性

市立高等学校の今後の方向性を検討するに当たって、取り組むべき課題を明らかにするため、第2次計画の検証結果によって明らかとなった4つの課題と、第2次計画策定以降に顕在化した課題を集約し、3つの方向性として示します。

(1) “選ばれる”高等学校づくりと少子化に伴う定員減への対応

令和20(2038)年度の神奈川県内中学校卒業者が令和5(2023)年度と比較して約3割減少する見込みとなっていることから(38頁の図7を参照)、今後、少子化が進行した場合、高等学校は「選ばれる立場」がより鮮明になってきます。よって、今後、川崎の強みを生かしながら、全校の魅力化・特色化に取り組み、中学生から“選ばれる”高等学校づくりを目指していくことが必要です。

また、魅力化・特色化と並行し、少子化に伴う市立高等学校全体の適正な配置及び規模についても検討する必要があります。高等学校の募集定員は、各校の裁量で自由に定めるものではなく、法律¹⁵によって「都道府県がその区域内の公立高等学校の配置及び規模の適正化に努めなければならない」とされており、神奈川県内の高等学校の校数が現在のまま変わらないとすると、令和20(2038)年度には、市立高等学校全体で最大1校分(約320人程度)の募集定員減となる可能性があることから、少子化に伴う募集定員減への対応として、市立高等学校全体の適正な配置及び規模に向けた検討に着手する必要があります。

(2) 学びを“選べる”高等学校づくりと定員割れへの対応

働きながら学ぶ青年に対し教育の機会均等を保証することを目的とした定時制課程は、勤労青少年が全国的に減少する中、夜間部の高等学校を積極的に選択する必要性が低下し、設置目的を含め再度検討する時期にきているといえます。

一方で、通信制課程の進学者が増加していますが、不登校経験のある児童生徒が急増する中、自分のペースで学びたいという子どものニーズと通信制課程の学び方が合致していることが要因ではないかと考えられます。国の「第4期教育振興基本計画(令和5(2023)年6月策定)」において、新たに「高等学校段階での多様な学びの実現の検討」が示されたことから、第1次計画において、将来的な検討課題として見送られた次の2つの取組も踏まえながら、今後、社会状況の変化や生徒が求める教育ニーズ等を分析し、定時制課程という形に捉われず、単位制による課程や通信制課程等、多様な学び方から、生徒が学びを“選べる”高等学校づくりを目指していくことが必要です。

¹⁵ 公立高等学校の適正配置及び教職員定数の標準等に関する法律(昭和36年法律第188号)

また、市立高等学校の定時制課程における1番の課題は、定員割れへの対応ですが、定時制課程については、(1)の市立高等学校全体の適正な配置及び規模の検討において、併せて検討していく必要があります。

将来的な検討課題（第1次計画記載）

ア 全日制課程への単位制の導入についての検討

生徒一人一人が、しっかりとした目標を持ち、自分の進路実現に向けて充実した高等学校生活を送ることができるよう、単位制の導入について検討していきます。

イ 新たなタイプの学校の検討

不登校を経験した生徒や他の高等学校を中途退学した生徒、学習面で十分な成果が得られなかった生徒等への対応について、望ましいカウンセリングやガイダンスの在り方や、集中力を切らさないための授業時間の短縮や生徒が自分のペースで学べるような授業の進め方などの研究を引き続き進めるとともに、「学び直し」や「やり直し」を希望する意欲ある生徒を支援するクラス等の設置についても今後の検討課題としていきます。

また、例えば神奈川県で実施しているような、個別学習を重視して、一人一人の生活スタイルや学習ペースに応じることができるようなシステムをもつフレキシブルスクール¹⁶等についても今後の検討課題としていきます。

(3) 校舎の目標耐用年数経過への対応

高津高等学校校舎の老朽化の対応については、第1次計画では第2次計画の検討課題とされていましたが、第2次計画では「学校施設長期保全計画」に基づき、改築等は行わず、改修による再生整備と予防保全を基本として長寿命化を図ることとなりました。

本検証時点で、旧校舎は目標耐用年数80年が経過する令和19(2037)年度まで、残り12年となったことから、(1)及び(2)の市立高等学校全体の適正な配置及び規模の検討と併せて、今後の対応について検討していく必要があります。

4 今後のスケジュール

市立高等学校の今後の方向性については、「3 今後の検討の方向性」に沿って、今後、外部有識者等も交えて検討を進め、「川崎市総合計画」や「かわさき教育プラン」等とも整合性を図りながら、「(仮称)新たな市立高等学校等改革構想」として策定する方向で進めていきます。

¹⁶ 神奈川県の「県立高校改革推進計画（平成12(2000)年度から平成21(2009)年度まで）」及びその後の取組において設置された新しいタイプの高等学校の1つ。県立高等学校のうち、一人ひとりの生活スタイルや学習のニーズに合わせて、時間帯を選んで学ぶことができる学校をフレキシブルスクールとしている。

第4章 参考資料

1 市立高等学校の歴史

川崎高等学校（川崎区）	
明治 44（1911）年	● 明治 32（1899）年の高等女学校令（明治 32 年勅令第 31 号）により、各府県は府県費により高等女学校の設置が義務付けられ、県下に女学校や中学校が設置される中、商家の子女が多い旧東海道川崎宿周辺地域からの高等教育に対する要求を反映し、川崎町立女子高等技芸補習学校が創立
大正 13（1924）年	● 人口 20 万を包含する付近町村唯一の女学校として生徒数も増加する中、財政上の問題から県移管の声が地元有志から上がったものの、県としては小田原、横須賀の移管が先決となり、大正 13（1924）年の川崎市制施行に伴い、川崎市が管理者（財産に関する権利義務は市に帰属）となり、市立川崎実科高等女学校と改称
昭和 17（1942）年	● 市立川崎高等女学校に改称
昭和 23（1948）年	● 学制改革によって市立川崎高等学校に改称
昭和 24（1949）年	● 市立商業高等学校を統合し、全日制課程普通科・家庭科・商業科、定時制課程商業科（夜間）・洋裁科（夜間）、別科洋裁科（昼間、夜間）となる。
昭和 28（1953）年	● 全日制課程商業科、定時制課程商業科（夜間）、別科洋裁科（昼間）を廃止、定時制普通科を設置
昭和 29（1954）年	● 別科洋裁科（夜間）を廃止
昭和 36（1961）年	● 全日制課程普通科・家庭科、定時制課程普通科となる。
平成 6（1994）年	● 学科改編によって全日制課程家庭科が生活科学科となる。
平成 9（1997）年	● 全日制課程福祉科を設置
平成 26（2014）年	● 川崎高等学校附属中学校を開校 ● 定時制課程普通科昼間部を開校
令和 2（2020）年	● 全日制課程普通科の令和 3（2021）年度入学生の募集停止
令和 5（2023）年	● 定時制課程普通科において在県外国人等特別募集を開始
令和 6（2024）年	● 定時制課程普通科夜間部を廃止

幸高等学校（幸区）

昭和 23（1948）年	● 大正 7（1918）年創立の御幸村立実業補修学校、大正 9（1920）年創立の大師農業補修学校女子部、大正 14（1925）年創立の橘樹郡田島町商工実務学校、昭和 16（1941）年創立の市立商業学校（男子）、昭和 20（1945）年創立の市立第三女子商業学校を統合し、市立商業高等学校を創立 ● 市立川崎商業高等学校別科（英語科、商業科）を宮前小学校内に設置
昭和 24（1949）年	● 市立商業高等学校と市立川崎高等学校が統合し、定時制課程商業科を設置、別科を廃止
昭和 28（1953）年	● 統合した商業科が分離独立し、市立商業高等学校を創立
昭和 62（1987）年	● 情報処理科を設置
平成 6（1994）年	● 国際ビジネス科を設置
平成 22（2010）年	● 商業科、情報処理科、国際ビジネス科を改編し、ビジネス教養科となる。
平成 29（2017）年	● 市立幸高等学校に改称し、全日制課程普通科を設置 ● 定時制課程商業科 2 ～ 4 学年が川崎総合科学高等学校に移管

川崎総合科学高等学校（幸区）

昭和 10（1935）年	● 川崎区中島町（現在の川崎高等学校）に市立工業学校創立
昭和 20（1945）年	● 空襲により校舎焼失、終戦とともに宮前区馬絹の旧陸軍施設跡移転
昭和 23（1948）年	● 学制改革によって市立工業高等学校に改称
昭和 24（1949）年	● 廃校
昭和 38（1963）年	● 科学技術の振興、中堅技術者の育成等の社会的要請により、再び市立工業高等学校として創立
昭和 39（1964）年	● 定時制課程電気科、電子科を設置
昭和 40（1965）年	● 定時制課程機械科を設置
平成 5（1993）年	● 市立川崎総合科学高等学校と改称し、情報工学科、総合電気科、電子機械科、建設工学科、デザイン科、科学科を設置
平成 26（2014）年	● 定時制課程電気科、電子科、機械科を改編し、定時制課程クリエイティブ工学科を設置
平成 29（2017）年	● 商業高等学校定時制課程商業科 2 ～ 4 学年が移管

橘高等学校（中原区）

昭和 17（1942）年	● 昭和 16（1941）年頃から、市内に男子の市立中等学校がないため、市の中部に設置してほしいという市民要望を受け、市立橘中学校を創立
昭和 21（1946）年	● 久本の旧日本光学青年学校跡に移転
昭和 23（1948）年	● 学制改革によって市立橘高等学校に改称 ● 全日制課程普通科、定時制課程普通科を設置
昭和 25（1950）年	● 定時制課程商業科を設置
昭和 28（1953）年	● 定時制課程商業科を廃止
平成 6（1994）年	● 定時制課程普通科における 3 年制を実施
平成 13（2001）年	● 全日制課程国際科・スポーツ科を設置
平成 26（2014）年	● 定時制課程普通科の 3 年制を廃止

高津高等学校（高津区）

昭和 3（1928）年	● 明治時代後期の私立女子技芸塾を前身とし、昭和 3（1928）年の高等女学校令によって高津町立高津実科高等女学校を創立
昭和 10（1935）年	● 高津町立高津高等女学校に改称
昭和 12（1937）年	● 高津町の川崎市合併に伴い市立高津高等女学校に改称
昭和 23（1948）年	● 学制改革によって市立高津高等学校に改称 ● 全日制課程普通科を設置
昭和 30（1955）年	● 全日制課程普通科を男女共学に変更 ● 全日制課程家庭科、定時制課程普通科を設置
昭和 50（1975）年	● 全日制課程家庭科を廃止

2 市立高等学校に関する計画の体系図

川崎市立高等学校教育振興計画 (平成15年度～)

入学者選抜方法及び通学区域(学区)などの検討

- 市内2学区を1学区に変更
- 転入学の弾力化

新しい視点による学校・学科・学系の創造

生徒の可能性を伸ばすための教育内容や教育方法の充実

- 川崎市立高等学校連携講座
- 2学期制
- 社会人講師の活用

開かれた高等学校づくりの推進

- 開放講座の拡充
- 社会人聴講制度

生徒の意欲的な活動を支援する条件づくり

- 教職員人事異動方針を策定
- 川崎市立高等学校教科等研究協議会による研究、実践及び研究成果等をまとめた冊子を毎年編纂

具
体
化

着
実
な
推
進

市立高等学校改革推進計画 (平成19年度からおおむね10年間)

実施

- 中高一貫教育校として川崎高等学校附属中学校を開校
- 商業高等学校全日制課程にビジネス教養科及び普通科を設置、定時制課程普通科の募集停止、商業科を川崎総合科学高等学校に移管→幸高等学校に改称
- 2部制定時制として川崎高等学校定時制課程普通科に昼間部を新設

将来的な課題

- 全日制課程への単位制の導入検討
- 不登校や中途退学した生徒、学び直しややり直しを希望する生徒を支援するクラス等の設置、フレキシブルスクール※等の新たなタイプの学校の検討

※神奈川県が設置している単位制の高校で、1日12時間のうち、午前・午後・夜間の時間帯から授業を生徒が選択できる。全国共通の制度ではない。

市立高等学校改革推進計画第2次計画 (令和2年度からおおむね10年間)

実施

- 教科等横断的な教育課程の一部実施
- キャリアに関する学校設定教科・科目設置
- インターンシップ実施
- 無線LAN導入(全校)
- 幸高等学校全日制課程普通科を3学級募集に、ビジネス教養科を3学級募集に変更
- 中高一貫教育校として、海外研修、地元企業等と連携した取組、高等学校普通科の募集停止
- 大学進学や就職等の多様な進路選択が可能となるよう、選択科目変更
- 専門学科の紹介動画作成・配信
- 定時制自立支援事業全校実施
- 日本語学習コース設置(川崎)
- 高津高等学校定時制課程を2学級募集に変更
- 川崎高等学校定時制課程昼間部を4学級募集に変更、夜間部の募集停止 …その他

今後の課題

- 教科等横断的な学びの強化の必要性
- 中高一貫教育の見直しの必要性
- 専門学科の定員割れへの対応の必要性
- 教育ニーズに合わせた定時制課程の在り方検討の必要性

3 市立高等学校の定員の変遷

年度	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6
	提言				川崎市立高等学校教育振興計画																					
全日制課程									市立高等学校改革推進計画										市立高等学校改革推進計画第2次計画							
川崎高等学校																										
普通科	200人(5)	160人(4)																	40人(1)				募集停止			
生活科学科	40人(1)																									
福祉科	40人(1)																									
中高一貫(附属中学校)																										
中高一貫(高等学校普通科)																			120人(3) ※附属中学校からの進級のみ							
幸高等学校(H28まで商業高等学校)																										
商業科	160人(4)							120(3)																		
情報処理科	80人(2)																									
国際ビジネス科	40人(1)																									
普通科																										
川崎総合科学高等学校																										
情報工学科	40人(1)																									
総合電気科	40人(1)																									
電子機械科	40人(1)																									
建設工学科	40人(1)																									
デザイン科	40人(1)																									
科学科	40人(1)																									
橘高等学校																										
普通科	280人(7)		200人(5)			160人(4)						200人(5)														
国際科			40人(1)																							
スポーツ科			40人(1)																							
高津高等学校																										
普通科	280人(7)					240人(6)											280人(7)									
定時制課程																										
川崎高等学校																										
普通科	70人(2)									80人(2)		74人(2)	70人(2)											募集停止		
普通科(昼間部)																										
幸高等学校(H28まで商業高等学校)																										
普通科	35人(1)									40人(1)		37人(1)	35人(1)													
商業科	35人(1)									40人(1)		37人(1)	35人(1)													
川崎総合科学高等学校																										
電気科	35人(1)									40人(1)		37人(1)	35人(1)													
電子科																										
機械科	35人(1)									40人(1)		37人(1)	35人(1)													
商業科																										
橘高等学校																										
普通科(4年制)	35人(1)									40人(1)		37人(1)	35人(1)													
普通科(3年制)	35人(1)									40人(1)		37人(1)	35人(1)													
高津高等学校																										
普通科	105人(3)									120人(3)		111人(3)	105人(3)												学級数変更	70(2)

※入学年度における定員数、()内は学級換算、  は市立高等学校改革推進計画及び第2次計画による変更

川崎高等学校 普通科

川崎高等学校附属中学校

※川崎高等学校附属中学校3年生の国語、数学、英語はチーム・ティーチングにより実施

※幸高等学校普通科のリサーチ基礎は教科等横断的な教育科目

橘高等学校 普通科

単位数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
1年	現代の国語		言語文化		歴史総合		公共		数学Ⅰ		数学Ⅱ		物理基礎		化学基礎		生物基礎		体育		保健		芸術Ⅰ		英語 コミュニケーションⅠ		論理・表現Ⅰ		総合的な探究の時間		LHR
単位数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
2年	文系 理系	論理国語	地理総合		数学Ⅱ			体育	保健		英語 コミュニケーションⅡ		論理・表現Ⅱ		家庭基礎		情報Ⅰ		数学Ⅲ		数学Ⅳ		古典探究		2年選択Ⅱ 世界史探究等		総合的な探究の時間	LHR			
																									物理					2年選択Ⅱ 化学、数学Ⅳ等	
																									生物						
単位数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
3年	文系 理系	論理国語	体育		英語 コミュニケーションⅢ				論理・表現Ⅲ			3年選択Ⅰ 古典発展等		3年選択Ⅱ 世界史発展等		3年選択Ⅲ 英語実践（2）＋ 世界史実践（2）等		3年選択Ⅳ 自由選択 理科基礎 実践 等		3年選択Ⅴ 自由選択 英語実践等		3年選択Ⅵ 自由選択 世界史実践 等		3年選択Ⅶ 自由選択 国語実践等				総合的な探究の時間	LHR		
												3年選択Ⅰ 数学Ⅳ 等		3年選択Ⅱ 物理発展等		3年選択Ⅲ 数学Ⅳ等															

高津高等学校 普通科

単位数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
1年	現代の国語		言語文化		地理総合		数学Ⅰ			数学A		物理基礎		化学基礎		体育		保健		芸術Ⅰ		英語 コミュニケーションⅠ		論理・表現Ⅰ		情報Ⅰ		総合的な探究の時間	LHR	
単位数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27			28
2年	文系	文学国語		歴史総合		公共		数学Ⅱ			数学B		生物基礎		体育		保健		英語 コミュニケーションⅡ			論理・表現Ⅱ		家庭基礎		A選択		総合的な探究の時間	LHR	
	理系																									キャリア研究 古文等				
単位数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
3年	文系 理系	論理国語			体育		英語 コミュニケーションⅢ			論理・表現Ⅲ		B選択 国語表現 等		C選択 世界史探究 等			D選択 世界史発展等			E選択 古文読解等		F選択 現代文読解等		総合的な探究の時間	LHR					
												B選択 数学Ⅲ 等		C選択 数学ⅠAⅡBC探究等			D選択 数学C等			E選択 倫理 等		F選択 化学実践等								

※高津高等学校普通科のキャリア研究は教科等横断的な教育科目

川崎高等学校 生活科学科

単位数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34
1年	現代の国語		言語文化		公共		数学Ⅰ		科学と人間生活		体育		保健		芸術Ⅰ		英語コミュニケーションⅠ		情報Ⅰ		家庭総合			生活産業基礎		生活産業演習		ファッション造形基礎		フードデザイン		LHR		
単位数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34
2年	論理国語		文学国語		地理総合		数学A		化学基礎		体育		保健		英語コミュニケーションⅡ		調理			ファッション造形			生活産業実習			LHR								
単位数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34
3年	食物系 服飾系	論理国語		歴史総合		生物基礎		体育		英語コミュニケーションⅢ		保育基礎		保育実践		生活総合実践		調理			栄養と文化			課題研究			選択 生活芸術、 実用数学等		LHR					
																ファッション造形			デザインと文化															

川崎高等学校 福祉科

単位数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34		
1年	現代の国語	言語文化	公共		科学と人間生活		体育		芸術Ⅰ		英語 コミュニケーションⅠ		家庭基礎	社会福祉基礎	介護福祉基礎	コミュニケーションⅡ 基礎	生活支援技術	介護総合演習	介護実習	こころとからだの理解	福祉情報	L H R														
単位数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36
2年	論理国語	地理総合		数学Ⅰ		体育		英語 コミュニケーションⅡ		社会福祉基礎	介護福祉基礎	コミュニケーションⅢ 基礎	生活支援技術	介護過程	介護総合演習	介護実習	こころとからだの理解	選択 化学基礎、 基礎国語等	L H R	介護実習																
単位数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36
3年	論理国語	歴史総合	生物基礎		体育		英語 コミュニケーションⅢ	介護福祉基礎	生活支援技術	介護過程	介護総合演習	介護実習	こころとからだの理解	社会福祉概論	社会福祉演習	選択 社会福祉探究 実用数学 等	L H R	介護実習																		

幸高等学校 ビジネス教養科

単位数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
1年	現代の国語		言語文化		歴史総合		数学Ⅰ			体育		保健	芸術Ⅰ		英語 コミュニケーションⅠ		ビジネス基礎Ⅰ			簿記					情報処理			L H R		
単位数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
2年	論理国語		文学国語		公共		数学A		生物基礎		体育		保健	家庭基礎	英語 コミュニケーションⅡ		マーケティング		ソフトウェア活用		財務会計Ⅰ			課題研究	選択1 古典研究α等		リサーチ基礎	L H R		
単位数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
3年	論理国語		文学国語		地理総合		科学と人間生活		体育			英語 コミュニケーションⅢ		総合実践			ビジネス法規		課題研究		選択2 世界史探究等			選択3 現代文研究等		選択4 古典研究β等			L H R	

※幸高等学校ビジネス教養科のリサーチ基礎は教科等横断的な教育科目

川崎総合科学高等学校 情報工学科

単位数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
1年	現代の国語		言語文化		地理総合		数学Ⅰ			数学A		科学と人間生活		体育			保健	英語 コミュニケーションⅠ			音楽Ⅰ		ハードウェア技術		工業情報数理		工業技術基礎			L H R
単位数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
2年	論理国語		公共		数学Ⅱ			数学B		物理基礎		体育		保健	英語 コミュニケーションⅡ			家庭基礎		コンピュータシステム技術		ソフトウェア技術		プログラミング技術			実習			L H R
単位数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
3年	論理国語		歴史総合		体育		英語 コミュニケーションⅢ			DBプログラミング		Javaプログラミング		実習			課題研究			3年選択A 工業実践A等		3年選択B 工業実践B等		3年選択C システム応用等		3年選択D ネットワーク応用等		3年選択E 制御技術等		L H R

川崎総合科学高等学校 総合電気科

単位数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
1年	現代の国語		言語文化		地理総合		数学Ⅰ			数学A		科学と人間生活		体育			保健	英語 コミュニケーションⅠ			音楽Ⅰ		電気回路			工業情報数理	工業技術基礎			LHR
単位数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
2年	論理国語		公共		数学Ⅱ			物理基礎		体育		保健	英語 コミュニケーションⅡ			家庭基礎		電気回路		電気機器		電子回路		工業情報数理	実習			2年選択 数学B 等		LHR
単位数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
3年	論理国語		歴史総合		体育		英語 コミュニケーションⅢ			製図		実習			課題研究				3年選択A 工業実践A 等			3年選択B 工業実践B等		3年選択C 電力技術等		3年選択D 電気制御 等		3年選択E 電気機器等		LHR

川崎総合科学高等学校 電子機械科

単位数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
1年	現代の国語		言語文化		地理総合		数学Ⅰ			数学A		科学と人間生活		体育			保健	英語コミュニケーションⅠ		音楽Ⅰ		工業情報数理		工業技術基礎			製図		L H R	
単位数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
2年	論理国語		公共		数学Ⅱ			物理基礎		体育		保健	英語コミュニケーションⅡ		家庭基礎	機械工作		機械設計				実習			製図			2年選択 数学B 等		L H R
																生産技術														
単位数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
3年	論理国語		歴史総合		体育		英語コミュニケーションⅢ			メカトロニクス実践		課題研究			実習			製図		3年選択A 工業実践A 等		3年選択B 工業実践B等		3年選択C メカトロニクスA 等		3年選択D メカトロニクスB 等		3年選択E メカトロニクスC 等		L H R

川崎総合科学高等学校 建設工学科

単位数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	
1年	現代の国語		言語文化		地理総合		数学Ⅰ			数学A		科学と人間生活		体育		保健		英語コミュニケーションⅠ		音楽Ⅰ		工業情報数理		工業技術基礎			製図		L H R		
単位数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	
2年	論理国語		公共		数学Ⅱ		物理基礎			体育		保健	英語コミュニケーションⅡ		家庭基礎		土木構造設計		測量		実習				製図			2年選択 数学B 等	L H R		
																	建築構造		建築計画												
単位数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	
3年	論理国語		歴史総合		体育		英語コミュニケーションⅢ			社会基盤工学		土木基盤力学		課題研究			実習			3年選択A 工業実践A 等		3年選択B 工業実践B等		3年選択C 建築計画等			3年選択D 物理／製図		3年選択E 物理／製図		L H R
										建築法規		建築施工																			

川崎総合科学高等学校 デザイン科

単位数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
1年	現代の国語		言語文化		地理総合		歴史総合		数学Ⅰ			科学と人間生活		体育		保健	英語 コミュニケーションⅠ			音楽Ⅰ		デザイン実 践	実習		工業情報数理		工業技術基礎		L H R	
単位数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
2年	論理国語			公共		数学A		生物基礎		体育		保健	英語 コミュニケーションⅡ		家庭基礎		デザイン実 践	デザ イン 史	平面 デザイン 実習		立体・ CG実習		印刷実習		デッサンA		2年選択 古典基礎 等		L H R	
単位数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
3年	文学国語			体育		英語 コミュニケーションⅢ						視覚伝達実習 プロダクトデザイン メディアミックス表現		映像実習 立体造形 デッサンB		デザ イン 思 考	デザ イン 実 践	デザ イン 史	課題研究			プレゼン テーション		3年選択A 工業実践A等		3年選択B デッサンC 等		3年選択C 技能実習BC 等		L H R

川崎総合科学高等学校 科学科

単位数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33
1年	現代の国語		言語文化		歴史総合		地理総合		体育			保健	音楽Ⅰ		英語 コミュニケーションⅠ		論理・表現Ⅰ		理系数学Ⅰα				理系数学Ⅰβ		理数物理		理数化学		理数生物		理数探究基礎	L H R	
単位数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33
2年	文系 理系	論理国語	古典基礎	公共	体育	保健	家庭基礎	英語 コミュニケーションⅡ				論理・表現Ⅱ				理系数学Ⅱα				理系数学Ⅱβ				理数化学		理数物理／ 理数生物		理数探究基礎	L H R				
																								日本史探究		古典探究							
単位数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33
3年	文系 理系	論理国語	体育	英語 コミュニケーションⅢ				論理・表現Ⅲ				情報Ⅰ	理数化学 物理研究 生物研究		理数物理 理数生物 科学研究		理数数学Ⅱ 理数数学発展 理数数学応用		理数数学特論 理数数学応用		政治経済		理数探究				L H R						
													日本史特論		日本史研究		文学国語		古典発展	理数総合	英語総合												

橘高等学校 国際科

単位数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	
1年	現代の国語		言語文化		歴史総合		公共		数学Ⅰ			科学と人間生活		生物基礎		体育		保健	芸術Ⅰ		総合英語Ⅰ			論理・表現Ⅰ		English SkillsⅠ			国際理解Ⅰ	総合的な学習の時間	LHR	
単位数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	
2年	論理国語		古典探究			地理総合		数学A		体育		保健	家庭基礎	情報Ⅰ		総合英語Ⅱ			English SkillsⅡ			国際理解Ⅱ		専門外国語選択Ⅰ 韓国語等		2年国際科選択 世界史探究 等			総合的な学習の時間	LHR		
単位数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	
3年	論理国語		古典発展		3年国際科選択 世界史発展 等				体育			総合英語Ⅲ			English SkillsⅢ			専門外国語選択Ⅱ 韓国語等		課題研究			3年選択Ⅳ 自由選択 理科基礎 実践 等		3年選択Ⅴ 自由選択 英語実践等		3年選択Ⅵ 自由選択 世界史実践 等		3年選択Ⅶ 自由選択 国語実践等		総合的な学習の時間	LHR

橘高等学校 スポーツ科

単位数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32
1年	現代の国語		言語文化		歴史総合		公共		数学Ⅰ			科学と人間生活		生物基礎		保健	芸術Ⅰ		英語 コミュニケーションⅠ			スポーツ概論	総合スポーツ演習Ⅰ	スポーツⅠ	スポーツⅡ		スポーツⅢ	スポーツⅣ	総合的な学習の時間	LHR	スポーツⅤ	
単位数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32
2年	論理国語		文学国語			地理総合		数学A		保健	家庭基礎		情報Ⅰ		英語 コミュニケーションⅡ			2年 スポーツ科選択 世界史探究 等			スポーツ概論	総合スポーツ演習Ⅱ	スポーツⅠ	スポーツⅡ		スポーツⅢ	スポーツⅣ	スポーツⅤ	総合的な学習の時間	LHR	スポーツⅥ	
単位数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32
3年	論理国語		英語 コミュニケーションⅢ			2年スポーツ科選択 世界史発展 等				スポーツ概論	スポーツ総合演習				スポーツⅡ			スポーツⅢ	スポーツⅣ	スポーツⅤ	3年選択Ⅳ 自由選択 理科基礎 実践 等	3年選択Ⅴ 自由選択 英語実践等	3年選択Ⅵ 自由選択 世界史実践 等		3年選択Ⅶ 自由選択 国語実践等		総合的な学習の時間	LHR	スポーツⅥ			



Colors, Future!

いろいろって、未来。

川崎市

市立高等学校改革推進計画第2次計画検証報告書

令和7（2025）年2月

川崎市教育委員会事務局学校教育部指導課

〒210-8577 川崎市川崎区宮本町1番地

電話 044-200-3243

ファックス 044-200-2853

メール 88sidou@city.kawasaki.jp



川崎市は持続可能な開発目標（SDGs）を支援しています。

KAWASAKI
SDGs

COLORS
FUTURE!
ACTIONS
KAWASAKI 100th